



(題字は初代学長 山田守英氏)

第 191 号

令和 5 年 5 月 31 日

編集 旭川医科大学
発行 学生支援課



「カクレクマノミとイソギンチャク(おたる水族館)」 (写真撮影：学生支援課)

入学する皆さんを迎えて	学長 西川 祐司 ... 2
令和 5 年度入学式を挙行了しました	4
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 1 学年 金子 大洋 ...	5
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 1 学年 高谷 采佳 ...	5
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 1 学年 戸沢 莉奈 ...	6
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 1 学年 山村 旺介 ...	6
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 1 学年 與田 大成 ...	7
旭川医科大学に入学して ... 医学科第 2 学年 長谷部聡一 ...	7
旭川医科大学に入学して ... 看護学科第 1 学年 今村 美礼 ...	8
旭川医科大学に入学して ... 看護学科第 1 学年 木村ののか ...	8
旭川医科大学に入学して ... 看護学科第 1 学年 高木 杏菜 ...	9
旭川医科大学看護学科で学ぶみなさんへ	
..... 医学部看護学科長 升田由美子 ...	10

大学院修士課程看護学専攻長就任のご挨拶 ―道北に看護研究の拠点を―	大学院修士課程看護学専攻長 藤井 智子 ... 12
令和 5 年度 入学者ガイダンスを行いました	14
セミナー、講演会の開催報告 ―看護職キャリア支援センター ...	15
令和 4 年度「助産師セミナー」&「助産師交流会」開催報告 ...	16
令和 4 年度 保健師セミナー開催報告	18
授業評価(令和 4 年度後期)	20
卒業生の動向(医学科)	42
卒業生の動向(看護学科)	43
令和 5 年度保健管理センター健康相談日	44
旭川医科大学役員等紹介	45
教員の異動	46



入学する皆さんを迎えて

旭川医科大学

学 長 西 川 祐 司

今年度に入學された医学科第一学年95名の皆さん、医学科第二学年・編入生3名の皆さん、看護学科第一学年60名の皆さん、ご入学本当におめでとうございます。

1973年11月に創設された本学にとって、今年は記念すべき50周年に当たります。看護学科は1996年に開設されましたので、2026年には開設30周年を迎えます。看護学科の皆さんにとっては4年生になった時がちょうどその年になります。皆さんは本学の節目に入學する特別な学生と言って良いでしょう。レベルの高い医科大学を作り上げようとした建学当時の精神は本学の根幹に息づいていると私は信じており、学長として、本学を、学生を大切に、学生を第一に考える大学にしていきたいと思っています。その意味は、入學した学生全員が自由な雰囲気の中でそれぞれの個性と才能を伸ばし、どこで仕事しようとも一目置かれる人材を育成することです。

医学、看護学は人の命を扱う学問であり、習得するためにはかなり高いハードルを越えなければなりません。まずはこれまでに蓄積されてきた医学、看護学の現段階の知識を学ぶ必要があります。ただ、試験に通るだけのための勉強、進級だけを目的とした安易な勉強に流されてはいけません。急速に発達している人工知能はまもなく医師国家試験、看護師国家試験に合格するレベルに達するだけではなく、おそらく平均以上の成績をとるようになるのは確実です。試験勉強だけをして卒業していくのであれば、皆さんの存在意義はかなり怪しいものになっていくでしょう。

皆さんには医学、看護学を学ぶ上で、その先に広がっている広くて豊かな世界を考えるようにして欲しいと思います。医学的知識、看護学的知識は常に発展途上にあります。難しいこと、わからない部分、不完全な部分を少しずつでも解き明かしていくことが私たちの勤めです。自ら問いを立て、それらを解明し、現在の知見を書き換えて、将来の医学、看護学に貢献していくことが私たちには求められています。実際に現場で働くと、答えがすぐには見つからない問題、まだ解明されていない問題に遭遇することになります。本学を巣立っていく皆さんには、その時に自分自身の中に問題を考える意欲や能力が備わっているかどうか、問われているのです。これらの本質にあるのは「研究する心」であり、これは研究者として生きる場合だけでなく、臨床の現場で働く場合でも、レベ

ルの高い医療人を目指すならば欠かせないものです。

そのためにも皆さんには、あらゆる機会をとらえて、先生方から他では得がたい「生きた教育」を受けて欲しいと思います。学生と先生はいずれも本学の構成員であり、人間として対等です。本学の先生方は研究者としてそれぞれのテーマに向き合い、解明しようと日々悩みながら努力を続けています。先生方は皆さんが真剣に向き合えば、けっして権威ぶることはなく、皆さんを仲間として扱ってくれるはずです。そして、皆さんは共に学ぶ同級生と友情を育み、お互いに切磋琢磨するとともに、先輩、後輩とも広く、深く交流してください。その中で行われる人間修養が将来にわたる財産となり、豊かな教養となっていくのだと信じています。

現在私たちは、日本の中でも少子高齢化が最も急速に進んでいるこの地域において、人的資源、財源の乏しい中で、いかにして高いレベルの医療を提供し、維持していくか、というきわめて難しい課題に直面しています。この課題に対する解決策はまだ誰も見出せていません。しかし、これが解決できたならば近い将来の日本の医療危機を救うための大きなヒントになりうることは間違いありません。私たちはこの課題に積極的に取り組み、この地域の皆様の健康と安心に貢献していきたいと思います。そのためには皆さんの若い力と柔軟な思考力の助けが必要です。一緒に考え、行動していきましょう。

皆さんの今後の成長と発展を心から期待しています。

令和5年度入学式を挙行了しました

令和5年4月6日(木)10時30分から本学体育館において、令和5年度入学式を挙行了しました。新型コロナウイルス感染拡大を防止する観点から、新入生と教職員のみが出席し、式典の様子はライブ配信しました。

入学式では、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、医学科95名、医学科第2年次編入学3名、看護学科60名の合わせて158名が入学を許可されました。

続いて、入学生を代表して医学科の学生から宣誓が行われ、新入生それぞれが医療職者を目指す者としての決意を胸に刻み、大学生活の一步を踏み出しました。



式辞（学長 西川 祐司）



学生代表宣誓



入学式の様子

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 金子 大洋



まず私が旭川医科大学に入学して何を言いたいのか。この大学は友人、先輩、先生など周りの人から受ける刺激が大きいということを言いたいです。私は生まれも育ちも札幌で、地元の人以外との交流は親戚以外ほぼありませんでした。ところがどっこい大学に入ってみると、本州の人が多く多いこと。驚いたのは、彼らは言葉や背景、考え方などさまざまなことが少しずつ違うということです。まあ、背景や考え方が違うのは当然で、もちろん地元にも違う人はたくさんいます。しかし、地元の人は違うといってもそこまでの違いはありませんでした。だからこそ自分の知らない土地から来た彼らの話はとても面白く、日々刺激を受けています。

私は、国際医療人特別選抜という枠で大学に入学しました。この枠の学生は月に一度Zoomで、医療英語の方面で名高い先生の講義を受け、英語で診察する方法や、様々な病気の診断の仕

方を学びます。その機会では私は多くの知識を吸収するだけでなく、自分の無知さや、英語力の拙さをよく痛感します。そのおかげで私は英語や新しい知識を取り入れようという意欲を刺激され、日々の学習の質が高まっていることを時折実感します。またその場では、学年の壁を越えた交流も行われており、先輩の姿から多くのことを学んでいます。このような機会は、将来海外に留学をしたいと考えている私にとっては、とてつもなくありがたいものです。

長かったコロナ禍も少しずつ収まるなか、大学側も少しずつ規制を緩めています。2,3年ほど開催できていなかった医大祭も今年はようやく開催できるとのことで心が躍っています。また、私が高校生の頃は新型コロナウイルス感染拡大の危惧により、開催されなかったセミナーや体験会なども今年からは参加可能になりつつあります。多岐にわたる分野の学問を知る絶好の機会として、多くの活動に参加し、将来なりたい自分の医師像に少しでも近づけるような活動をしていきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 高谷 采佳



旭川医科大学に入学して、早くも一か月が経ちました。私は大学病院の近くに住んでいますが、ドクターヘリの離発着を見ることが度々あり、こちらの大学が北海道の広範囲の地域医療を担う拠点病院であることを改めて感じます。

親元を離れ一人暮らしを始めましたが、当初は旭川という慣れない土地や人間関係、大学での勉強に不安を感じていました。しかし、同じ教室で授業を受け、部活動を始めることで、同じような境遇にある友人がいることに気づきました。今でも環境の変化や生活のペースに戸惑うことがありますが、少しずつ慣れていくことができると感じています。

学習面ではようやくコロナ禍前の日常に戻りつつあり、対面授業が主として行われています。私は高校で物理を選択していなかったため、大学で一から始めることに不安を感じていました。

しかし、先生方が分かりやすく教えてくださり、manabaという学習コンテンツを活用することで、いつでも個別質問が可能であるなど、勉強面の手厚いサポートにより、何とかついていくことができています。一年目は基礎教養科目がほとんどですが、前期に行われるオンラインでの早期体験実習や医療概論、地域医療学といった医療に触れることのできる講義もあります。将来医師になる上で必要な考え方や行動を学び、身に付けることが出来る良い機会になると思うので、今から非常に楽しみです。

私は高校まで書道や音楽に親しんできました。大学でも部活動でそれらを続けていきたいと考えており、仲間達との交流を深めつつ、充実した学生生活を送りたいと思います。

6年間の学校生活では勉学に励むだけでなく、同期や先輩、先生方と良い関係を作り上げ、将来信頼される医師となれるよう、また一人の社会人としても成長できるよう日々努力したいと思っています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 戸 沢 莉 奈



旭川医科大学に入学して、早くも1か月が経過しました。思い返せば、合格を頂いてから今に至るまで、進学準備や新しい環境に慣れることに精一杯で、この頃ようやく旭川医科大学の学生としての実感が湧いてきたように思います。

入学式は保護者へのライブ配信という形を取りつつも実施、授業もほとんどの科目で対面という形がとられています。高校3年間はコロナで覆われて悔しい思いをたくさんした分、少しずつ戻りつつあるコロナ前の日常のありがたみを強く感じています。

当たり前のことですが、大学には色々な人がいて、誰一人として同じ環境で育った人はいません。今まで過ごしてきた中学校や高校でも同じことは言えますが、大学ではさらにその輪が広がったように感じます。特に旭川医科大学では、道内のみならず、全国から様々な学生が集まっていて、その多様さを毎日新鮮な気持ちで楽しんでいます。また、自分と同じ志をもった

仲間とともにお互いを高め合える環境はとても素晴らしく、医師という目標に向かって勉強していくにあたり、身が引き締まる思いです。私は道外出身のため、初めての北海道、初めての一人暮らしに最初は不安が尽きませんでしたが、旭川医科大学に入学することができてよかったと心から思っています。

第1学年では、これから早期体験実習が本格的に始まります。コロナによりオンラインでの実施となってしまったことが非常に残念ですが、オンラインだからこそ学べることもあるかもしれません。第1学年の春という早期に、実際の医療現場について学べるという貴重な機会を十分に活用し、より多くの学びを得られるように尽力したいです。

これから6年間、楽しいことや嬉しいことばかりでなく、大変なことや辛いこともたくさん待ち受けていることと思います。それでも、患者さんや地域にとって立派な医師になれるように、ここ旭川医科大学で、日々努力していきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 山 村 旺 介



旭川医科大学に入学し、早一か月が経ちました。すでに入学当初の不安等はなく、新しい生活にも慣れ始めています。今までの生活と大きく変わったところといえば、コロナに関する点だと思います。

今年の3月からやっとマスクの着用が個人の判断となり、街にも活気が戻ってきたように見えます。それに伴い今年からは学祭や部活の大会など様々な行事が再開するというので、期待に胸を膨らませている生徒も多いのではないかと思います。もちろん自分もその一人です。高校生活ではコロナにより色々なことが制限されていたので、大学生活ではその分様々なことに挑戦し、自分の内面を磨いていきたいと考えています。そのために私はまず多くの人と関わることから始めようと思っています。大学は中学・高校と違い、遠方から来た人や歳が離れた人と接する機会に溢れてい

ます。そのため、軽く誰かと会話をするだけでも自分の知らなかったことや新しい考え方というものに触れることができます。それらの経験はこれからの自分の人生に必ず良い影響を及ぼしてくれるので、これからは新しい人と関わることへの抵抗をなくし、自分の視野を広げられるように努力していきたいと考えています。

大学生になると、自由度が一気に上がり、自分のやりたいことはほとんど何でもできるようになりますが、その分責任も自分で負わなければなりません。ですが、だからといって新しいことや未知のものを自分から遠ざけるのではなく、覚悟をもってそれらに挑戦し、自分の人生をより豊かなものにしようと考えています。その途中様々な場面で苦難に直面するとは思いますが、そのたびに周りの友達や先輩、先生方の力を借りることで、なんとか乗り越え、自分を人として成長させていきたいと考えています。

旭川医科大学に入学して

医学科第1学年 興 田 大 成



旭川医科大学に入学して1ヶ月が経ちました。新生活や勉強、人間関係など様々なことに不安を感じていた1ヶ月前では想像つかないほど充実した生活を送ることができています。

まだ入学して1ヶ月ですが、授業はとても難しく、毎日毎日新しいことを学び、自分のものにするのは大変で、ついていくのがやっとです。しかし、自分で考え自分なりに解釈したり、友達と話し合ったりすることは、とても良い刺激になり、大変に感じながらも楽しさを持って授業を受けています。これから中間試験や期末試験があり、不安もありますが、友達と協力しあって乗り切っていきたいと思います。今は基礎科目が多いですが、すぐに早期体験実習も始まりましますし、これから学年が上がるにつれて医学の専門的なことを学ぶ機会も増えてくると思うので、高い意識で学習していきたいと思っています。

この1ヶ月間の大学生活でまず感じたことは、この大学には色々な人がいるということです。

す。年齢や出身地、考え方の違いなど、多様な人がこの大学にはいます。そういった人達と話をするのは自分にとって刺激になるし、考え方や価値観を広げるととてもいい経験になっています。高校ではそういった経験がなかなかなかったので、新鮮に感じています。これから更に色々な人と話して、より多くの考え方や価値観を得ていきたいと思っています。

部活はバレーボールを選びました。高校までは違う競技をやっていた、バレーボールを本格的にするのは初めてだったのですが、練習ごとに新しいことを教わったり実践していく中で、この競技の面白さを感じ、始めて1ヶ月でバレーボールが好きになりました。また同期の友達とも仲良くなれましたし、先輩もみんないい人達ばかりで、本当に部活の時間が楽しみになっています。

今後はより医学生としての自覚を持ちたいと思っています。勉強ももちろんそうですし、医師としてあるべき人間性や考え方を身につけていかなければならないと思います。6年後に自分が目指す医師像に近づけているように、今から意識して生活していきたいです。

旭川医科大学に入学して

医学科第2学年 長谷部 聡 一



旭川医科大学に入学してから早1ヵ月が経ちました。私は今年の2月まで札幌で銀行に勤務しており、4年ぶりの学生生活に戸惑いながらも、日々楽しく学生生活を送ることができています。例年医学部医学科第2年次編入生は10名いましたが、今年は3名と少なく、入学式前日の入学式名簿でその人数を知り、驚きや不安を感じたのを今も覚えています。ただ、実際に入学してみると、編入生同期が少ないからこそ濃い人間関係を作ることができ、また一般生のみなさんも壁を作らず優しく接してくれ、今は入学当初の不安は無くなっています。

今年は3年以上続いた新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行し、大きな節目となる年になりました。コロナ禍ではZoomや分散登校だった授業も、今年からは全員登校による対面授業で受けることができ、また、早期体験実習も直接医療機関に赴き実習を行うことが

できるようになりました。通常の講義・実習が送れるようになりつつあり、嬉しく思います。医学科第2学年は医学の基礎を学びますが、自身が編入試験に際し学んだ知識よりも広く深く医学を学ぶことができ、医学の難しさを感じながらも学ぶことの楽しさを感じています。また、私は元々文系大学出身で、大学の授業は必ずしも将来の仕事に直結するものではなかったと記憶しています。ただ、医学科の授業は医師となる目標を基に、全ての授業に意義が有り、学びに際限が無く、1ヵ月と短い期間ながらも非常に楽しく授業を受けることができています。

最後にですが、旭川医科大学にて医学を学ぶ機会を頂けたことを感謝しています。ただ、現時点ではスタートラインに立っただけに過ぎない為、現状に満足せず、自主性を持って医学を学んでいきたいと思っています。旭川医科大学での講義・実習を通じて、医師として求められる資質や能力を研鑽し、将来自身の地元である北海道の地域医療に貢献できるような医師になりたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 今村 美礼



旭川医科大学に入学して一か月が経とうとしています。最初はだれも知らないところへ行くことや、大学という高校までとは全く違うシステムへの不安で一杯でした。しかし、実際行ってみると、印象は大きく変わりました。

大学はとても面白いところで、いつも楽しいです。高校は、同じ地域から人が集まっている学校だったので、出身地域について意識することはありませんでした。一方、大学は様々な地域から人が集まっているので出身地域のことを聞くだけでも楽しいです。どの学年の人も優しい人ばかりで、感動しました。生まれてから育った場所がそれぞれ違う人たちが、同じ場所で学んでいるという大学の環境が素敵だと思います。

大学の授業も続々と始まっています。大学の授業は一コマ九十分のイメージがあったので、旭川医科大学は一コマ六十分で驚きました。最後の六コマ目があっても終わりが五時過ぎな

いため、放課後の部活動やバイトなどの時間を確保しやすく良いなと思いました。時間は高校と比べて大きな違いはありませんでしたが、授業形態はとても変化したと感じます。板書があったノートを書いていた受動的な授業から、事前に提示された資料をもとに講義を聞いて理解しなければいけない能動的な授業へ変わりました。とても難しいです。情報が絶えず流れてくるので、整理するのだけでも一苦労。早く理解をできるように頑張りたいです。

今は、高校の時からの変化に慣れるので精一杯の状態です。大学生になって一人暮らしも始まり、勉強以外にもしなければいけないことがたくさん増えました。一日一日がとても短く感じられます。そのため家のことをするたびに、実家で母の有難さやすごさを痛感しています。母のように、料理や家事ができるようになりたいです。

そしてこれから始まる四年間は、活動が戻りつつある部活や医大祭も頑張って全力で楽しむように過ごしていきたいと思っています。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 木村 ののか



旭川医科大学に入学して約1か月が経ちました。今年は人々の生活を一変させた新型コロナウイルス感染症の扱いが変わり、コロナ禍前までは当たり前のようにあったことひとつひとつにありがたみを感じています。

私には10年ほど前にこの大学病院でがん闘い、生還した祖母がいます。祖母の病室から見えていた旭川医科大学の学生になれたことに未だにどこかふわふわとしたものを感じ、大学構内に入るたびに入学できた喜びを噛み締めています。そしてついこの間まで受験生だったため、大学生になりアルバイトや運転免許証の取得などできることが増えて気が緩む瞬間もあります。そのようなときには私はがん専門看護師という夢を追い求めてここに入学したことを思い出し、気を強く持ち、学生の本分である勉学に励んでいます。

大学はこれまでとは違い、自己責任の部分が増すと聞いています。また、年齢上は大人であ

りつつも学生であるという微妙な期間にあるため学生という立場でしっかり学習しつつ、成人している一人の人間という立場を意識した行動をしています。

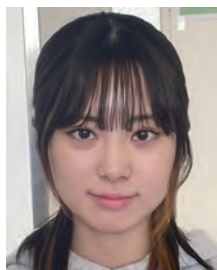
今年は医大祭の開催も叶うということで、私は皆さんが医大祭を楽しむことができるよう精一杯ヘルパーとしての役割を果たしたいと思っています。加えて、学科を超えたつながりや、先輩方とのつながりを積極的に持ちたいとも考えています。

超高齢社会、少子化で労働人口が減少し、医療従事者が不足している中私たちは医療従事者を志す今も、勤務することとなる未来にも重要な役回りとなることが考えられるため、目先の勉強もこなしながら将来のことを考え医療者ない看護職者としてどのような行動がふさわしいかをしっかりと考えていきます。

幼少期から憧れていた夢を叶えることができるようにこの4年間は謙虚な気持ちを忘れず、学びに対しては貪欲にこの学校で過ごしていきたいです。

旭川医科大学に入学して

看護学科第1学年 高 木 杏 菜



旭川医科大学に入学して、約1か月が経ちました。無事に入学式を終え、憧れを抱いていた大学で、これから4年間をともにする仲間たちとそれぞれの夢に向かって走り出しています。

5月8日から新型コロナウイルスが5類感染症へ移行し、感染対策が個人の判断となりました。今年は各部活で新入生歓迎会が行われ、先輩方との交流を深めることができ、同期同士の仲もより深まりました。4年ぶりに医大祭も開催されるということで、昔から思い描いてきた学生生活をやっと取り戻してきたのではないかと思います。

授業はすでにほぼすべてが対面で行われており、manabaなどの教育支援システムを用いながら、充実した環境の中で勉学に励むことができます。大学の授業は高校の授業とはかなり違っており、専門的な用語が飛び交う中、自

分自身で、重要となる部分を判断していかなければなりません。看護の世界は、常に正解があるとも限らず、自分なりの答えを見つけていく必要もあります。今までとは異なった勉強の仕方に戸惑う日々はもう少し続きそうですが、柔軟に対応し、学業に励んでいきたいと思います。生活面では、特に部活動が充実しています。先輩方はとても優しく、気さくに話しかけてくださるだけでなく、部活動に真摯に取り組んでおり、毎度、私も先輩方のようにになりたい、という気持ちにさせられます。普段の授業だけでは味わうことのできない充実感を常日頃感じています。

大学生になり、自分の責任は自分で持たなければならない年齢になっている今、行動や言動にはより一層注意が必要となってくると思います。その上で、医療従事者となる自覚を持ち、看護職者の夢に向かって仲間と協力し合い、学生としての本分を見失わないよう気を引き締めて頑張っていこうと思います。



旭川医科大学看護学科で学ぶ みなさんへ

旭川医科大学 医学部看護学科長
升 田 由美子

4月にご入学された新入生、そして進級された在学生のみなさま、おめでとうございます。保護者のみなさま、いつも旭川医科大学の教育活動にご支援をいただきありがとうございます。私はこの度、令和5年4月1日付で看護学科長に就任いたしました。旭川医科大学の勤務は長いのですが、看護学科長としては「新人」です。今後とも看護学科の教育・研究活動が円滑に進むように尽力いたします。

この3年間、看護を含めた保健・医療・福祉、そして教育の場においても新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）流行に多大な影響を受けることとなりました。本学でも講義・演習・実習を実施することに大変な苦労がありました。ネット環境も不十分、教材も揃わないなか、学生のみなさんたちの努力と教員の創意工夫で何とか授業を続け、徐々に大学の設備も整い、半年程度で会議システムZoomを用いたりアルタイムでのオンライン双方向授業が可能となり、ようやく大学らしい講義・演習が行えるようになりました。また、一度に病棟に行く学生数を減らすなどの対策を取りながら、大学病院などに看護学実習を受け入れていただきました。実習施設の皆さまには改めてお礼を申し上げます。

大学ではCOVID-19流行当初より、感染リスクを下げるための3密（密閉、密集、密接）回避として分散登校を行い、教室に入る学生数を半分にし、残り半数の学生は自宅からオンラインで授業を受ける形がとられました。令和4年10月、全員が一度に大学に登校できるようになり、学生でいっぱいになった講義室に入った際には、やっと通常に戻るのだなと実感しました。

また、COVID-19による急激な患者数の増加、医療資源の枯渇など臨床ではより過酷な状況がありました。そのような中、臨床現場での医師・看護師の活躍が多く報じられ、その姿に胸を打たれた方もいることでしょう。本学で学ぶ学生の多くが将来は看護職（保健師・助産師・看護師）として活躍する未来予想図を描いていると思います。みなさんが大学で学ぶ「看護学」は臨床・臨地の現場で日々実践されている“実践科学”です。看護実践は豊富な知識と正確な技術により可能となります。そして看護の対象は健康な人、病気の人、また個人・家族・集団であり、看護の場は病院や施設、自宅など多岐に

わたります。看護師が観察し、ケアするのは「人間の反応」であり「生活」です。看護を実践する際には問題を解決する「問題解決思考」とともに対人関係を構築する「コミュニケーション能力」が必要です。

この3年間、COVID-19は私たちがコミュニケーションを図る機会を心理的にも物理的にも妨げていました。この5月からCOVID-19は5類感染症に移行し、徐々に従来の生活に戻ることでしょう。今年の新入生は高校3年間で制限の多い不自由な中で過ごしてきたことと思いますが、この困難を乗り越えてきたみなさんはすでに「強さ」を身に付けています。この「強さ」を発揮して、充実した大学生活を過ごしていただきたいと祈念しています。ぜひ多くの方と関わり、コミュニケーションを図り、豊かな人間関係を築いてください。看護学科・医学科の同級生や先輩・後輩、部活動やサークルの仲間、教職員、地域活動でお世話になる住民のみなさん、実習で受け持つ患者さんなど、多くの出会いがみなさんを待っています。

旭川医科大学は今年で開設50周年、看護学科は令和8年に開設30周年を迎えます。少子高齢社会の中、特に道東・道北地域の保健医療に貢献できる看護職を育成する大学の使命を果たし、学生が将来の夢に向かって進むことを全力でサポートしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



大学院修士課程看護学専攻長就任のご挨拶 —道北に看護研究の拠点を—

旭川医科大学
大学院修士課程看護学専攻長

藤 井 智 子

この度、大学院修士課程看護学専攻長を務めさせていただくことになりご挨拶を申し上げます。本学に修士課程看護学専攻が設置されたのは2000(平成12)年度で、くしくも介護保険制度が開始された年でした。日本の人口構造は類をみないスピードで少子高齢化が進み、世界のどこの国も経験したことのない高齢社会の始まりでもある時期です。この頃から人々の健康の関心は一層高まり、医療も診断治療のみならず予防、リハビリテーション、健康増進と拡大し地域で人々を支え安心をもたらすものとして期待されてきました。看護の実践も病院の中の看護に加え地域へと広がり、人々が生活する場において質の高さが求められ、期待を背負って大学院が設置されたといえます。設置当初は北海道において看護系大学院は2校が札幌にあるのみで、道北に位置する本学に開設されたことは大変大きな意味があったと考えます。

当時の修士課程看護学専攻科の設置趣旨を紐解きますと、そこには、広大な地域で活躍するために必要な看護管理能力、特に自ら看護管理上の諸問題を解明し社会的責務を十分果たす能力、保健・福祉・医療等との調整能力を有し学術研究の実践と指導ができること、さらには近隣国との医療・看護の交流の推進ができる専門職者の養成など熱い思いが記されていました。広域のなか自治体が点在し、その多くが積雪寒冷地で高齢化の進む北海道の特徴を踏まえた「地域社会と国際社会」両方に貢献できる人材を育成する使命を改めて認識し身の引き締まる思いをしております。

本修士課程は、2008(平成20)年にがん看護専門看護師教育課程が立ち上がり、修士論文コースと高度実践コースに改組されました。さらに2017(平成29)年には高度実践コースに高齢者看護専門看護師教育課程が導入され、使命の柱を大切にしながら時代のニーズにあわせ充実させてきました。日頃の活動の中の疑問を探求し答えを導きたい、もっと良い看護を提供したいと様々な動機や抱負を胸に多くの看護職が進学し、開設から22年が経過した2022(令和4)年度末で247人の修了者を輩出しました。大学病院、地域の病院・診療所、訪問看護ステーション等で働く看護師、助産師、自治体の保健師、看護管理者、看護教員など看護職をはじめ、理学療法士などの看護以外の医療職や福祉職の方々も本修士課程で学び、実践者として、教育・研究者として地域に貢献

しております。看護は実践の科学であり、実践知を言語化していくこと、光のあたらないところに光を当て研究的視点で看護を発展させるためにも看護研究を推進していかなければならないと考えます。

今、日本は新型コロナウイルス感染症のパンデミックを乗り越えつつ多くの医療職は疲弊しています。さらに人類が経験したことのない高齢社会に直面し北海道は高齢化の先をいき、看護職は目の前のケアに追われ研究どころではないかもしれません。しかしこのような時だからこそ様々な課題が現れ、「課題を解決していくための看護の力」が求められるといえます。新しい看護技術、仕組みづくりを生み出すためにも道北の看護研究の拠点として修士課程が皆様とともに歩む存在となるよう努力していく所存です。今後も皆様のご指導、ご協力を賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年度 入学者ガイダンスを行いました

令和5年4月6日(木)、7日(金)、10日(月)に令和5年度入学者ガイダンスを行いました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため会場を分散し、入場する際にはマスクの着用や手指消毒、間隔を空けて着席するなどの対策をして実施しました。

入学者ガイダンスでは、教育・評価担当副学長の奥村利勝教授からの開会挨拶の中で本学の学生として遵守して欲しいこと、学習法及び修学上の注意点についてお話がありました。

医学科ガイダンスでは、教育センターの野津司教授から医学科カリキュラムについて、新入生へは医学科第1学年担当教員の三好暢博教授から、編入生へは医学科第2学年担当教員の高橋龍尚教授から、学生生活について説明がありました。

また看護学科ガイダンスでは、看護学講座の升田由美子教授、山内まゆみ教授、看護学科第1学年担当教員の藤井智子教授から看護学科での『学び方』、保健師課程や助産師課程の選択等について説明がありました。

新入生達は、緊張した面持ちで各説明者のお話に集中して聞き入っていました。最初は緊張気味でしたが、休憩時間などの交流を通じて、会の終わりには打ち解け合っている姿を見ることができました。



入学者ガイダンスの様子

セミナー、講演会の開催報告 ―看護職キャリア支援センター



看護職キャリア支援センター

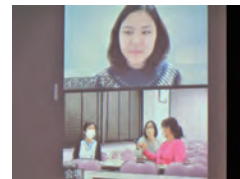
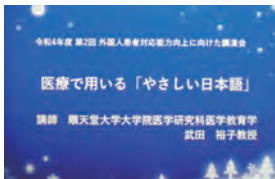
「第2回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会」を開催しました

2月20日に、第2回 外国人患者対応能力向上に向けた講演会を開催しました。看護職キャリア支援センター 教育プログラム開発部門では、多様な文化や価値観を理解し外国人患者に対応できる看護職の育成を目標に講演会を企画しています。今回は、順天堂大学大学院医学研究科医学教育学 教授 武田裕子先生を講師にお招きし、医療で用いる「やさしい日本語」をテーマにご講演頂きました。「やさしい日本語」とは、相手に合わせて、分かりやすく伝える日本語を指します。日本語を母語としない方、高齢者、障がいのある方など、様々な方に用いられます。武田先生は在留外国人の健康格差の改善に向けて、医療機関における「やさしい日本語」の普及に取り組まれています。講演会には、看護職、医師、教員をはじめ事務職員、また、学外からも参加があり、関心の高さがうかがえました。

講演では、写真や動画を通して、「やさしい日本語」が生まれた背景や、なぜ医療で必要か、役立つかについてのお話から、「やさしい日本語」を実際に使用する際のコツについてもお話し頂きました。「やさしい日本語」の練習問題を体験し、表現の変更の難しさを実感しましたが、先生からは、何を質問したいのか、その状況を考えてながら質問すると伝わりやすいと助言を頂きました。また、理解できる日本語のレベルは一人ひとり異なるため、相手の状況に合わせて、本当に伝わっているのか、相手の表情を観察することが大切とも教えて頂きました。講演後は、ミャンマー出身の留学生に模擬患者のご協力を頂き、シナリオを用いて、実際に「やさしい日本語」を使用したロールプレイを体験しました。実際の臨床場面を想定し、「やさしい日本語」を用いて、日本語を母語としない患者さんに鎮痛薬の使用法や副作用について説明する体験をしました。率直に難しさを感じましたが、模擬患者からフィードバックを得て実践することができました。武田先生からは、訓練が必要であること、繰り返し実践することで理解できることがあると助言を頂きました。重要なことは、言葉の言い換えやスキルではなく、相手のことを理解したいという気持ちであり、相手への配慮が「やさしい日本語」となり、より良い対話につながることを学びました。今後、日本語を母語としない方との対話の際、または、高齢者、障がいのある方など、様々な方との対話に活かしていきたいと思えます。

ご講演頂いた武田裕子先生、日々のご経験から、実際の医療現場で活用できる具体的な「やさしい日本語」についてわかりやすくお話し頂き、ありがとうございました。心より感謝申し上げます。

※開催の様子はホームページにも掲載しています。<https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/7516>



「就職に向けた心構えセミナー」を開催しました

「就職に向けた心構えセミナー」は、就職活動が始まる看護学科3年生を対象とし、令和5年3月1日にハイブリット形式として開催しました。会場23名、Zoom16名の参加がありました。

部門長である山根由起子教授の挨拶、部門員紹介に引き続き、看護学科長谷川博亮教授から【自分を魅せる履歴書の書き方】と題し、講義をいただきました。講義の要点は以下です。

- ・履歴書は、書くことが目的ではなく、看護職を目指す私を理解してもらうためのものである
- ・「自分を魅せる」とは、相手に、一緒に働きたい、あるいは地域や患者さんに必要な人と感じてもらうことである
- ・履歴書を書くことで自分の看護職の可能性を様々な角度から理解する機会となる
- ・自分を深く・多面的に・具体的に把握する自己分析、および看護に関連した自分の強みを見つけることが重要である
- ・初年次セミナーで学んだマインドマップも活かせる

上記のほか、履歴書を丁寧に書くポイント、志望の動機・自己PR、実習での学びを「魅せる」書き方、小論文を含めて自分の言いたいことを伝える技法など分かりやすく伝えていただきました。

【就職活動に向けた先輩からのメッセージ】では、就職活動を終えた5人の4年生にご自身の経験と取り組みについてお話をいただきました。

就職活動では、多くの方が合同説明会に参加されていました。就職先を決めるポイントとしては、自分の成長の場となること、看護師としての経験が積み長く働けること、あるいは生活拠点としての視点、実習等で慣れていることなどが挙げられていました。

採用面接にあたって心掛けたこととしては、心を落ち着かせ笑顔を意識すること、丸暗記したり良いことを言おうしないこと、質問に素直に答えること、一貫性を意識することなど様々な秘訣が語られました。

また、履歴書を書くことは、自分の考えている看護観を深め、働くビジョンを形成する体験であり、それが就職面接につながることもお話しいただきました。

参加者のアンケートでは、多くの参加者が「大変役にたった」と回答し、「履歴書が「顔」になることが分かった」「自分を魅せるために看護観を深め、自分の言葉で伝えることができるようにしたい」「分かりやすかった」「良い時間だった」「先輩の話に説得力があった」「勇気がもらえた」などの感想が記載されていました。

途中、Zoomの接続が途切れるなどのトラブルがあり参加者の方にご迷惑をおかけしましたことをお詫言いたします。

キャリア支援部門では初めての試みでしたが、講師の皆さまのおかげで有意義な企画になったと評価しています。開催時期など参加者の方からいただきました意見を参考にし、今後も学生の皆さまの就職活動の一助になれるような企画を考えていきたいと思っています。

※開催の様子はホームページにも掲載しています。<https://www.asahikawa-med.ac.jp/ncsc/archives/7657>



令和4年度「助産師セミナー」&「助産師交流会」開催報告

令和5年3月8日(水)午前中に助産師セミナーを、午後に助産師交流会を実施しました。

両イベント報告は以下をご覧ください。また、看護職キャリア支援センターホームページ内に掲載中の実施後のアンケート結果も別途ご参照ください。

★「助産師セミナー」

場所・時間：本学看護学科棟6階地域保健看護学実習室 9時45分～12時05分

対象者：本学を卒業した助産師

参加者：9名（卒業生4名、4年助産学生5名）

本年度は、卒業生が希望したテーマを取り入れ「フリースタイルの分娩介助を体験してみよう」と題し、フリースタイル分娩の理論と実際の介助技術について市内で助産院をされている北田恵美院長からご指導いただきました。助産師は産婦の安全な出産を常に願いながら出産体位への助言や指示もさせていただきますが、産婦ご自身が安楽と感じる出産体位での助産を支援したいとも願っています。そのために助産師自身の“助産”の技を極めたいニーズが常にあるものです。そこで今回は四つん這いや側臥位といった出産体位での介助技術を直接ご指導いただくことができました。参加者は、介助技術の能力向上ができる良い機会となり目を輝かせながら講師からの助言や技術指導を熱心に受けていました。



★「助産師交流会」

場所・時間：本学看護学科棟2階 B・C・D講義室 13時30分～16時00分

開催方法：会場とZoomによるハイブリット方式

対象者：助産師を目指したい在學生と本学を卒業した助産師

参加者：33名（在學生24名、卒業生9名）

助産師交流会は、本学の助産師課程選択学生4年生、およびこれから選択したい、あるいは助産師に興味があるといった1年から3年の在學生による交流、また、本学から巣立った助産師と直接対話する機会を設けています。そうすることでこれからの学習過程が具体化できたり、疑問点等が解決したり、助産師で活躍する魅力を感じられたりすることを狙っています。

交流会の進行は、教員から簡単に本学の助産師課程の説明をした後、卒業直前の助産師課程選択学生4年生から1年間の学習過程を報告してもらい、3つの実習施設が提供する助産師業務についてそれぞれ先輩助産師からご説明いただきました。その後は10名前後の在學生・卒業生混在グループを3つ編成し、各教室に別れて1時間程度自由に交流してもらいました。助産師課程でどう学習を進めていくか、どうやって就職を決めたのか、など、在學生は4年生や先輩助産師に自由に尋ねたりしており、先輩助産師は記憶をたどりながら一生懸命交流を深めてくださいました。

交流会参加による在學生、卒業生の満足度は共に高く、有意義な時間を過ごせたようでした。





令和4年度 保健師セミナー開催報告

令和5年3月10日(金) 会場とZoom併用ハイブリット開催

参加者：看護学科1～4学年41名、1年目保健師6名

○保健師セミナーの歴史

本セミナーは、保健師課程の学習や就職活動、保健師活動の実際を知り、先輩後輩のネットワーク作りを目的としています。開会挨拶では公衆衛生看護学領域の藤井教授から、保健師は活動のイメージが持ちにくいという学生の声からH18年に4年生を対象に開始し、1～3年生からも参加希望があり対象を拡大してきた保健師セミナーの歴史が伝えられました。近年は、看護学科同窓会と看護職キャリア支援センターと共催で専門職業人としてのキャリアを考える機会へと広がりました。

○「保健師課程」の学習のイメージ化

第4学年の保健師課程学生から報告「保健師課程の演習・実習の実際」とZoom交流会を行いました。4年生から、保健師を志望したきっかけ、保健師課程の流れ、同期の仲間と協力しながら励んだ1年間について報告いただきました。交流会では、保健師は様々な地域の自治体へ就職する人が多いことから、就職先の決め手やインターンシップの体験なども話題となりました。1年間の学習と就職までのプロセスのイメージ化を図る時間となったようです。

○新得町と旭川市で働く卒業生の体験談

午後の部は「1年目保健師の体験」のシンポジウムを行いました。市町村で働く先輩2名の体験談をうかがいました。人口規模の違いで活動体制や内容が一部異なること、保健師として住民の方に寄り添う姿勢は同じであることが共有されました。地区を受け持ち家庭訪問や子育て相談、健康診査などの活動の様子、職場でプリセプターの先輩と相談しながら保健師として成長してきた1年間を振り返って語っていただきました。

○先輩・後輩の交流を通して将来を見据える

参加者の声として、セミナー後アンケートを一部ご紹介します。「保健師課程の具体的な内容やスケジュール等学ぶことができ、自分が3年生4年生となった時に困らないよう今のうちから将来を見据えた生活をしていこうと思った（1年生）」、「実習や勉強を友人と協力して取り組んだこと、これから自分がどのような道を辿っていくのかを明確に知ることができた。保健師として就職してからは大変なこと以外にやりがいや達成感もあるというお話から漠然とした不安が解消され、将来が楽しみになった（2年生）」、「保健師課程選考試験や学習内容、国家試験や卒業研究との両立など様々なことを知ることができてよかった（3年生）」、「先輩の経験を聴く側から経験を伝える側になり、保健師に興味がある後輩の姿を純粹に応援したくなりました。1年目の皆さんの経験を聴かせていただき、頑張っていこうという気持ちになりました（4年生）」などの感想がありました。

先輩・後輩の交流を通して、自身のキャリアについて将来の見通しを持つ時間となりました。多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

保健師セミナーの様子



4年生報告「保健師課程の演習・実習の実際
～8期生の同期と励んだ1年」



シンポジウム「1年目保健師の体験」



交流会の様子・・・1年目保健師&4年生は対面
1～3年生はzoom参加



会場に来てくださった1年目保健師の皆さん&4年生代表



最後に・・・
1年目保健師交流会



R4年度保健師セミナー参加者集合写真

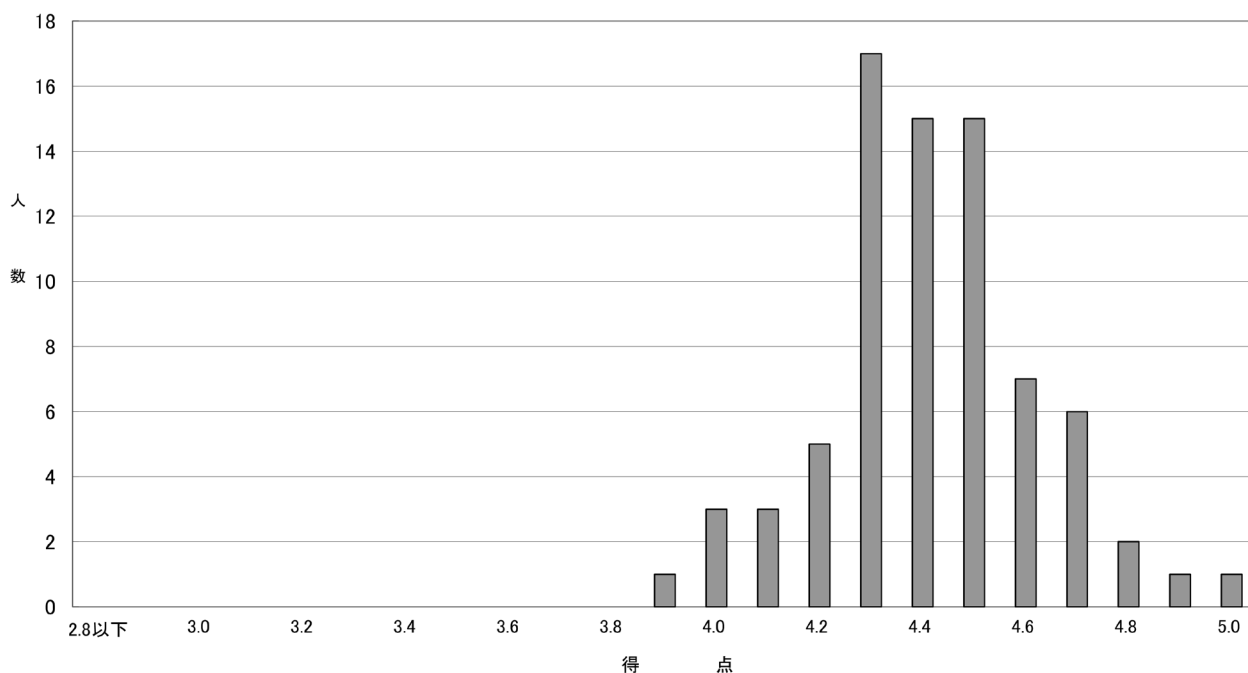
多数のご参加ありがとうございました
語りあい・学びあい・未来へ・・・



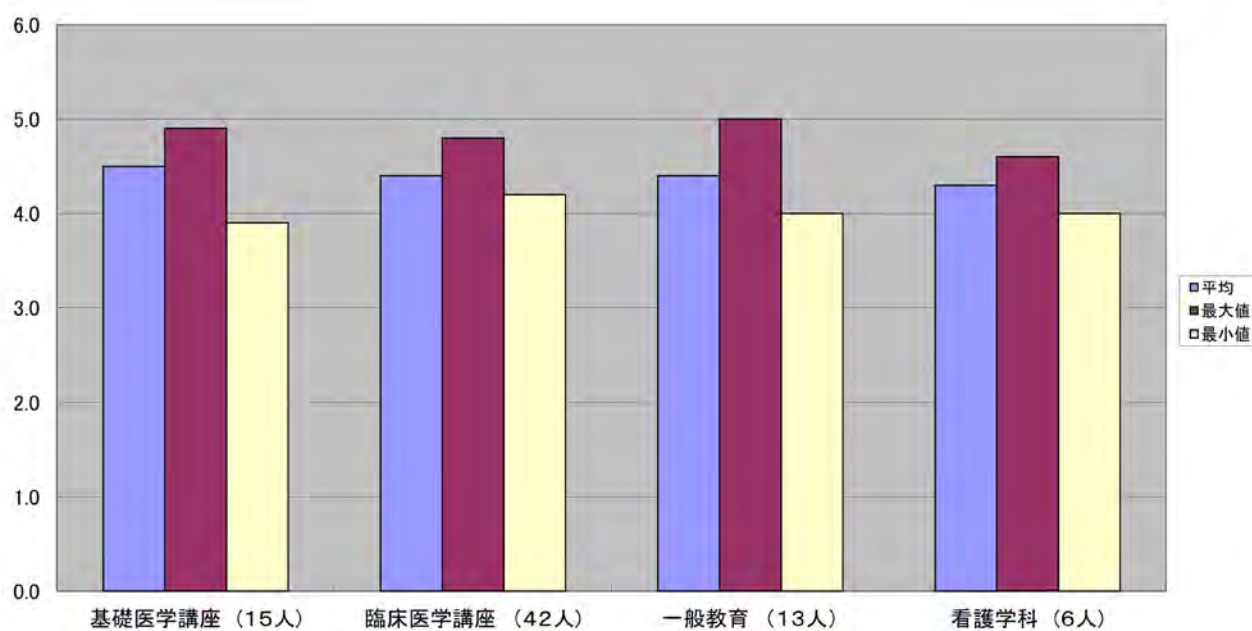
令和4年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人 数	得 点																						
	2.8以下	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
												1	3	3	5	17	15	15	7	6	2	1	1

(実施人数 76・平均 4.4)



部局別教員の平均点と最高・最低点



令和4年度後期「企画に対する学生評価」

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなたの履修態度・理解度について	問1 事前に教科書や講義資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 この科目はどのくらい理解できましたか？
	問3 授業の復習を毎回しましたか。
目的の達成	問4 科目の一般目標を達成することができましたか。
科目内容	問5 あなたにとって科目全体の難易度は適切でしたか。
総合評価	問6 この科目は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科目名：医学英語 I A (医学科第1学年通年／必修)

履修者数：95 配付数：95 回収数：52 回収率：54.7%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.0	3.4	4.0	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員

全体的に演習にきちんと取り組んでくれました。語学という性質上、授業外の取り組みが個人のレベルアップに重要になってきます。解説講義で紹介した本などで学習してみてください。今後専門的な文献を読んでいく上で意識してほしいのは、語彙を増やすこと、論文の構造を意識すること、論文特有の表現を読みながら覚えて自分の論文執筆へつなげることです。将来に向けて継続的なトレーニングを行っていくことを期待しています。

科目名：医学英語 I B (医学科第1学年通年／必修)

履修者数：95 配付数：95 回収数：46 回収率：48.4%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.4	3.3	4.3	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員

I hope this is the last year we have restrictions due to the COVID-19 situation. Despite some difficulties due to the pandemic, the first-year medical students performed extremely well. The pandemic has shown us how interconnected our world is and while that has some obvious drawbacks, it has also shown the importance of using English in co-operating with people around the world. This year's students performed extremely well in their speaking tasks and worked together well in groups. I hope they can use the skills they have learned and make a valuable contribution to health care in Japan and around the world.

科目名：症候学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：59 回収率：62.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
4.2	4.3	3.9	4.3	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

症候学 担当教員

新カリキュラムで始まった授業である。1年生に臨床医学を学習させることで、難易度が危惧されたが、それは4.2と適切であった。また総合評価も4.4であり、1年生の今後の学習モチベーションを向上させるのに十分な効果があったと考える。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：50 回収率：52.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	4.1	3.9	4.1	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

医用物理学 担当教員

回収率(53%)の低さが気になりますが、総合評価(問6)は4.1で各評価項目も4.0前後と良い評価でした。特に問3(復習)の評価がこの2、3年で急上昇しました。manabaに講義資料と共に(講義資料に基づく)音声データを登録し始めた時期と符合しますので、その取り組みが功を奏したのかもしれませんが、今年度からのカリキュラム変更に伴い講義の内容も変わりましたが、良い評価を得られ安堵しています。

科目名：基礎化学（医学科第1学年通年／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：53 回収率：55.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.7	4.1	3.7	4.2	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

基礎化学 担当教員

基礎化学では医学科2年生で学ぶ生化学I、生化学II、薬理学、生理学実習・演習につながる内容や、臨床検査の測定原理と関係する内容を講義しています。夏休み前は分散登校で講義を行い、夏休み明けは全員登校で行いました。また、講義内容の理解とするために、ほぼ毎回レポート課題を出しました。定期試験は前期期末試験、後期中間試験、後期期末試験の3回実施しました。今年度はコロナ禍の影響で定期試験を実施する必修科目が少なかったこともあり、基礎化学の勉強に時間を多く割くことが可能だったと思います。いずれの試験でも例年より平均点は高いものでした。一方でレポート課題の提出が遅れた方が散見されました。今後、提出物の締切には十分注意していただきたいと思います。基礎化学ではできるだけ分かりやすい講義資料を作成することを心掛けていますが、皆さんには講義資料だけで満足することなく、医学科2年生で学ぶ科目とどのように関係するかをシラバスで確認し、自発的に発展した内容を学んでいただきたいと思います。医学科2年生になっても化学教室に質問に来てください。

科目名：発生遺伝学（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：59 回収率：62.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.7	3.4	3.7	3.6	4.1

＊評価に対するコメント

発生遺伝学 担当教員

本科目は人体発生学と遺伝医学で構成されています。それぞれの分野の履修主題は正常発生と先天異常、遺伝現象と遺伝性疾患ですが、講義では基礎生物学や関連領域との関わりについても説明するよう心がけています。総合点は4.1で、学生からは興味をもって学ぶことができたという感想が寄せられました。知識/情報を講義間で共有し関連づけることで学びが深まることを学生自らが認識し、評価いただいたものと考えています。

科目名：データサイエンス（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：66 回収率：69.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.9	3.5	3.2	3.7	3.2	3.8

＊評価に対するコメント

データサイエンス 担当教員

2020年度より小学校から順に新学習指導要領がスタートするなど、社会の流れから本科目が設置され、北大のリソース、非常勤講師の協力を得て、オンライン授業として企画しました。DX化への挑戦と開講初年次の苦労がありましたが、最後まで関心を持って取り組んでくださった学生さんに勇気付けられました。コロナ禍もあって、クラウド上の学習環境も利用しましたので、新しい技術に苦労されることもあったでしょう。他大とほぼ同じペースでの進行を試みしたので、予習・復習の時間外学習も含めて戸惑った学生さんもいた様子です。皆様のご理解、ご協力のもとで新規科目を充実していければ、嬉しいです。ありがとうございました。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：24 回収率：20.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.7	2.8	3.7	3.8	3.7

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡA 担当教員

医学英語の読解力を培うとともに、医学英語論文の構成に基づく読解ができるようになることを意図していました。毎回の授業課題にしっかり取り組んでくれたという印象を持っています。皆さんからのコメントは大変参考になりました。ありがとうございました。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：22 回収率：18.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.0	3.1	4.1	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

医学英語ⅡB 担当教員

I appreciated the comments from the second year medical students. The Med 2 students did very well this year. Students showed a high command of English in their ability to communicate with me and with each other. As future doctors, they will need this ability in international conferences, which I hope will be held again after 3 years of mostly being cancelled. They will also need English to analyze research written in English. The second year students already have a good command of English, but I hope they will continue to improve their English abilities. From what I have seen of the second year students, I am confident they will become doctors with high levels of English proficiency.

科目名：機能形態基礎医学Ⅱ（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：24 回収率：20.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.5	3.8	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

機能形態基礎医学Ⅱ 担当教員

6単位の大型科目なので中間テストなど複数回評価を行うことが望ましい科目ですが、ここ数年感染対策などで中間試験を行うことができませんでした。今年度は3年ぶりの中間試験の実施で、大型科目ゆえの学習の負担は軽減されたのではないのでしょうか。講義内容は各担当教官で様々な工夫がなされており、科目の満足度も4.0と、学生からの一定の評価は得られたのではないかと考えています。

科目名：医療概論Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：23 回収率：19.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.7	4.0	2.8	4.0	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅱ 担当教員

医療者としての臨床倫理・研究倫理、また、研究や医学教育、診療など様々な場面に関わる利益相反について学び、臨床倫理のグループワークも経験して医師のプロフェッショナリズム涵養の基礎となったと思います。尚、毎年、試験が不要ではないかとの少数意見があるのですが、医師国家試験にも毎年出題されている重要な領域であるため、皆さんに講義全体を見直す機会としてもらうためにも試験は続ける予定です。

科目名：病理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：25 回収率：20.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.7	3.3	3.5	3.4	3.9

＊評価に対するコメント

病理学 担当教員

ほぼ全ての項目において平均3点台で、難易度に関しては3.4でした。これは腫瘍病理分野からの試験問題が、学生の想定を超えた出題となり、再試験該当者が多数にのぼったことが要因とされます。出題に関しては教員の裁量に任せられておりますが、再試験該当者に関しては、せいぜい3.4割程度になるような出題になるよう、作題する方も改善が必要かと考えます。病理学は新カリキュラムから、3年生前期の開講になります。教官も変わりますので、学生さんからの懸念もある程度改善されると思います。

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：22 回収率：18.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.0	3.4	3.7	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員

微生物学講座は教員枠が1つ少ない状態で運営しています。吉田先生には無理を言ってその穴を埋めてもらっています。小テストを毎回やるとさらに人手不足になります。善処しますが教員枠が改善されないと難しい面もあります。なお、教科書等はシラバスに記載していますので参考にしてください。講義資料のパスワードロックについては、インターネットを使用している限り絶対安全とは言えない状況です。授業中に録画や撮影をする学生もいましたので現状でも対策は不十分かと思っています。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：27 回収率：22.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.8	3.1	3.8	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員

寄生虫学は多種にわたる生物の複雑な相互関係を学ばなければならないため、文章のみでは説明しづらい部分があります。そのため、図や動画を多用し、より深く理解してもらうように務めました。久しぶりの対面授業でしたが、多少の制約があったため、講義時間を短縮する必要があり、少し内容を削らざるを得なかったことが残念でした。科目全体に対する満足度は4.1でした。今後も、学生の知識欲を高めるような講義にしたいと考えています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：27 回収率：22.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.3	4.0	3.4	4.0

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

前年度いただいた評価に基づいて、講義では基礎的な事項から説明するように心がけました。学生の皆さんの理解度(3.9)が高まりましたので、次年度もこの方針を継続しようと思います。一方で、難易度が適切か(3.4)の項目は、今年度もやや低く、改善が必要だと考えています。講義の内容は標準的な教科書に沿っており、難易度を下げるわけにはいきませんが、資料の作成や講義の進め方を工夫していきたいと思います。薬の知識は不可欠なものですので、これから受講される皆さんも既に受講された皆さんも、ぜひ予習・復習を自発的に行ってください。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：22 回収率：18.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.7	2.6	3.7	3.7	4.0

＊評価に対するコメント

基礎医学特論 担当教員

基礎医学特論は、基礎医学講座の各講座の研究内容についてそれぞれの講師に紹介していただくオムニバス形式の講義として実施しました。講義内容が多岐にわたり、また、最新の研究内容の紹介で有ったため、理解が難しいのではないかと心配しましたが、科目全体にたいする満足度は4.0で、良好な評価を頂きました。様々な分野の研究を聴くことで今後の学習への刺激になれば、と思います。

科目名：医療概論Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：12 回収率：13.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.7	3.7	2.8	3.4	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

医療概論Ⅲ 担当教員

回収率が13%であり、来年度の授業の変更につながるような、根拠のある評価ではなかった。回収率を上げる方策が必要と思われた。座学と演習、グループワークを織り交ぜた授業形式は、今後も継続していく。

科目名：腫瘍学1（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：14 回収率：15.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.5	3.1	3.6	3.5	3.6

＊評価に対するコメント

腫瘍学1 担当教員

「腫瘍学1」では、今年も腫瘍学の中の特に基礎的で総論的な内容をそれぞれの専門家に講義していただいた。4年生前期の「腫瘍学2」では、各臓器における各論的な内容が扱われるのだが、本科目との違いが分からなかったとのコメントがあった。学生は比較的真剣に受講していたように思われる。試験では例年通り、新作を含む5肢選択問題を50問出題したが、本試験で全員が60点以上の成績を収めた。

科目名：生体調節医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：12 回収率：13.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.5	3.5	3.5	3.2	3.8

＊評価に対するコメント

生体調節医学 担当教員

内分泌 栄養 代謝 腎泌尿器を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占めることは間違いない。評価表の回収率の異常に低い(13.3%)状況での判断であるが、全体として評価は3.8と良くない。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が3.4, 3.1と低いことであり自発的な学習が十分でないことを危惧する。

科目名：生体防御医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：14 回収率：15.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.6	3.1	3.6	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

生体防御医学 担当教員

免疫 感染症 血液疾患を扱う本コースは、臨床医学でも重要な位置を占めることは間違いない。評価表の回収率の異常に低い(15.6%)状況での判断であるが、全体として評価は3.9と良くない。気になるのは、予習したか？復習したか？の項目が3.4, 3.1と低いことであり自発的な学習が十分でないことを危惧する。

科目名：精神・神経病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：16 回収率：17.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.7	3.9	3.2	3.8

＊評価に対するコメント

精神・神経病態医学 担当教員

この度は高評価を頂き、誠に有難うございます。

「楽しそうに講義をしていた」「面白い講義がたくさんありました」、といったコメントを頂きました。

本医学の興味深さや、講師たちの情熱が少しでもお伝えできたのなら本望です。

コーディネーターである当講座の不手際で、履修内容やシラバスの更新が間に合わず、大変ご迷惑をおかけいたしました。

科目名：感覚器病態医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：12 回収率：13.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.8	3.5	3.9	3.8

＊評価に対するコメント

感覚器病態医学 担当教員

本年の当講義に対する学生からの評価は回収率が13.3%(12/90)、レーティングが3.3～3.9であった。

回収率が低いため選択バイアスがかかっている可能性はあるが、それを抜きにして考えると概ね良好（ぐるなびであれば良さげなレストラン）と考えられた。

また、学生からの声として「感覚器としてまとめるのではなく、各講座ごとに（試験）をしてほしい」というご意見を頂いた。

今後の講義をさらに改善する際の一助になるのでは無いだろうか。

来年以降も学生一人ひとりに寄り添った心のこもった授業を行うことができるよう教員一同協力して授業の改善を図りたい。

科目名：生殖発達医学（医学科第3学年後期／必修）

履修者数：90 配付数：90 回収数：14 回収率：15.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.7	3.4	3.9	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

生殖発達医学 担当教員

本講義についての評価は90名中14名（15.6%）から頂き、科目全体の評価は平均 3.7、回答者全員から普通（3）～ 非常によい（5）という評価を得た。本科目では、ヒトの初期発生から子どもの発育・発達というダイナミックなプロセスを学び、その病的状態を内科的あるいは外科的視点から理解できるように構成されている。講義では広範囲の内容を扱っているため、受講者が興味を持ち自ら学ぶきっかけを持てるようさらに工夫していきたい。

科目名：生体構造機能蛋白・病態解析コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：69 配付数：69 回収数：12 回収率：17.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.7	2.8	3.5	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

生体構造機能蛋白・病態解析コース 担当教員

生体構造機能蛋白・病態解析コースでは、疾患治療や検査手法の根底にあるタンパク質の知識の幅広い習得をめざし、基礎から臨床まで様々な領域を専門とする先生方に、オムニバス形式で講義を担当していただきました。理解度は高かったものの、満足度（3.4）がやや低かったので、最近の知見も取り入れながら、学生の皆さんに一層興味を持っていただけるような講義を実施していきたいと思います。

科目名：救急・プライマリーケアコース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：4 回収率：20.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.3	3.3	4.0	4.0	4.3

＊評価に対するコメント

救急・プライマリーケアコース 担当教員

本コースは、3学年を対象に少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行っております。今年度も定員上限の受講者が集まり、コロナ感染状況も改善したため従来通りの現地開催とし、プライマリーケアの基礎知識と実際に学ぶことができたという、非常に高い評価を頂きました。

今後も実践的な診療・処置の習得を主眼に、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：睡眠医学コース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：71 配付数：71 回収数：9 回収率：12.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.9	3.8	3.2	3.7	3.6	3.9

＊評価に対するコメント

睡眠医学コース 担当教員

この度は多くの学生に選択して頂き、また高評価を頂きまして誠に有難うございました。

各講座の講師の方々にあらためて感謝申し上げます。

講義を通じて、睡眠医学という、身近ながらあまり体系的に学ぶ機会の少ない分野に興味を持ってもらえたら嬉しいです。

科目名：感覚器医学の最先端コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：18 配付数：18 回収数：4 回収率：22.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.3	2.8	2.3	3.7	3.0	2.8

＊評価に対するコメント

感覚器医学の最先端コース 担当教員

感覚器医学の基礎・臨床、そして最先端まで各領域の専門家が講義した。アンケートは4名からのみの回答で、目標達成に関するスコア以外は全て過去最低であった。難易度に1と5があったこと満足度はほぼ均等に分布していたことから、本講義に対する評価が学生によって著しく異なっていたことが伺える。今後、満足してもらえる有意義な講義となるよう取り組んでいくが、アンケートの回収率を上げる工夫も必要と思われた。

科目名：臨床薬理学コース（医科第3学年後期／選択必修）

履修者数：55 配付数：55 回収数：7 回収率：12.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.7	3.6	3.9	3.9	3.7

＊評価に対するコメント

臨床薬理学コース 担当教員

臨床薬理学コースは、臨床に携わっている各科の先生方に、オムニバス形式で講義を担当していただきました。いただいた評価から、理解度、難易度、満足度において、大方、学生の皆さんの興味に合った、適切な内容であったと考えます。薬物治療の知識は将来医療に携わる皆さんにとって不可欠ですので、次年度以降も最新の知見が伝わるような講義を実施していきたいと思えます。

科目名：ニューロサイエンスコース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：3 回収率：15.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.7	3.0	2.7	3.3	3.7	3.7

＊評価に対するコメント

ニューロサイエンスコース 担当教員

本令和4年度は、本コースの受講生が20人、評価をして下さった学生さんが、3名（回収率15%）でした。回収できた3名のコメントには、「講義は難しい内容が多かったが面白かった」、「脳神経に興味があったため面白かった」という前向きの内容がありました。一人でも脳に興味を戴きたいという理由で設けたコースなので、これで「良し」と思っております。

科目名：糖尿病・内分泌Up-Dateコース（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：14 配付数：14 回収数：3 回収率：21.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.3	4.0	2.3	3.7	3.7	4.7

＊評価に対するコメント

糖尿病・内分泌 Up-Date コース 担当教員

糖尿病・内分泌疾患に関連した最先端医学知識を、解剖学、生化学、薬理学、内科学、小児科学、産婦人科学、腎泌尿器外科学、整形外科、眼科学、臨床検査医学の多角的視点から学習する選択コースである。COVID-19感染予防のための3年余に及ぶ on line 講義から、対面講義が再開され間もない時期に行われた。学生は face to face に教官に質問・討議をする機会とともに、自学自習では得られない最新科学情報に触れ、全体満足度は4.7点と評価は高い。

科目名：英語 I A （看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.9	4.0	3.1	4.1	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

英語 I A 担当教員

全体的に演習への取り組みの意識が高かったです。この姿勢を次年度にも生かしてほしいと思います。まとまった分量の英文を読むのが最初は大変だったと思いますが、後半は読解のスピードも上がっていました。語学はトレーニングなので継続的な学習が大切です。自分が興味を持てる題材で英語に触れる機会を増やしていくことが飽きずに続けるコツだと思います。また専門的な文献や話題も英語ではどのように表現されるかという観点から英語に触れてみるのもおすすめです。

科目名：英語 I B （看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.1	4.2	3.3	4.0	4.2	4.3

＊評価に対するコメント

英語 I B 担当教員

I was very impressed with the first-year nursing students in the 2022-2023 school year. Although there were still some restrictions due to the pandemic, the situation was better than last year. All the students did very well, completing their assignments on time and many students did some exceptional work. Hopefully, the pandemic will soon be a thing of the past and students will be able to use the English they have learned for both work and travel. English will continue to be indispensable in all areas of healthcare and I hope students will continue to study and use English.

科目名：看護学概論 （看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：34 回収率：56.7%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
4.0	4.0	3.5	3.9	4.2	4.4

＊評価に対するコメント

看護学概論 担当教員

看護学概論（看護学科1年通年2単位）

本科目は 2022 カリキュラムから通年 30 コマとなり、1 年かけて看護学の基礎について学ぶこととなりました。満足度は 4.4 と高く、グループワークや多職種からの講義などで広く看護学に関する興味をもつことができたと考えています。概念的な理解は抽象度が高く難解、課題も漠然としているといった感想もあったため、次年度の講義の参考にしたいと思います。

科目名：人間生涯発達論 （看護学科第 1 学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6
3.2	4.0	2.9	3.8	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

人間生涯発達論 担当教員

評価の低い項目は、問1予習3.2(昨年3.2)、問3復習2.9(昨年2.7)でした。その一方、問2内容理解4.0(昨年4.0)、問4目標達成3.8(昨年3.7)、問5難易度4.3(昨年4.1)、問6満足度4.3(昨年4.3)でした。学生からの評価は概ね昨年と同様になりました。

本科目は人間の生涯を理解するための「導入部分」を担い、分かりやすい内容を心がけています。予習・復習は低い結果ではありますが、授業時間内で十分に学べる現在の内容を継続したいと考えます。

科目名：地域包括ケア論Ⅰ（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：31 回収率：51.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.1	3.2	4.2	4.3	4.2

＊評価に対するコメント

地域包括ケア論Ⅰ 担当教員

地域包括ケアシステムについてグループで調べたことを発表した後に、実際活動している方のご講演を聴講し、理解を深めた。また、各地区の地域特性把握に向き検証して成果発表を行うことができた。発表は住民にインタビューした2年生と合同で行い相互に学べた。さらに、地域活動に向き、体験から学びを積み、地域を把握し、看護職を目指す学生から貢献できることを主体的に学習できた。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：33 回収率：55.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.5	3.1	3.6	3.4	4.1

＊評価に対するコメント

形態機能学 担当教員

学生評価は昨年度とほぼ同様の結果であった。全体の満足度(問6)についてはコロナ禍以前に比べて高い評価が続いており、これは特に配布資料の充実が大きな要因と考えている。担当教員各位のご努力に感謝したい。講義内容の難しさは以前から指摘の多い項目である。初めて学ぶ大量で専門的な内容に戸惑いを覚えるのは致し方ない点ではあるが、より平易で詳しい解説を行うように努め、難しさを払拭できるようにしたい。

科目名：病理学総論（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	4.0	3.2	3.9	4.1	4.5

＊評価に対するコメント

病理学総論 担当教員

新カリキュラム4年目を迎えた病理学総論ですが、本年度も部分的にZoom併用という授業形態でしたが、全体の満足度のスコアは4.5ポイントと前年より高く、適切な企画であったと考えています。今後も改善を加え、効率よく学べて、達成感の得られるような内容を心掛けて、講義を企画したいと思います。

科目名：生化学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：38 回収率：63.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.8	3.2	3.8	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

生化学 担当教員

生化学は①分子の側面からの理解と②統合的な理解の2点が必要になってくるため、重要なポイントのみに絞って、分子機構をできるだけ省略せずに講義を行った。満足度や難易度が4を超え、感想でも分かり易かったとの記載が複数あり、その点では良かった。一方、講義を受けていれば、十分理解できるように心がけた弊害か、予習と復習(共に3.2)が低かった。今後は、予習や復習をしたくなるようなより魅力的な講義を目指したい。

科目名：地域看護学（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：34 回収率：56.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.1	3.1	4.0	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

地域看護学 担当教員

この科目では、地域で活動する看護職の役割についてのインタビューが一番印象に残ったようです。コロナ禍のため一部対面、大半はzoomで実施しましたが、「具体的な活動を聴き地域看護のイメージが湧いた」、「キャリアを考える機会になった」等の学びがあり、授業目標は達成されたと考えます。地域看護とは何か？引き続き探求していきましょう。

科目名：地域包括ケア論Ⅱ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：26 回収率：43.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.8	3.0	3.9	4.0	4.0

＊評価に対するコメント

地域包括ケア論Ⅱ 担当教員

地域包括ケア論Ⅱでは、住民の方にインタビューをさせていただいたり、様々な地域活動に参加しながら、地域での生活を知り、課題や強みを発見できましたね。1年生との合同授業では、地域の捉え方について情報共有・交流し、満足度も高い状況でした。学生の皆さんが地域の方々との関わりを通して学びを深めていく主体的な学習を今後も期待しています。

科目名：看護フィジカルアセスメント（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：58 回収率：96.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
4.4	4.1	3.8	3.9	4.1	4.4

＊評価に対するコメント

看護フィジカルアセスメント 担当教員

科目の満足度について4.4の評価（回収率96.7%）であり、科目の企画は概ね良好であったと考えます。自由記載には1年次に学習した形態機能学の知識、患者にわかりやすい説明の必要性に関する感想が複数ありました。授業そのものの構成や、科目開講の時期はみなさん自身が学習を積み重ねられるものとなっていたと考えます。小テスト、iPadを用いた動画撮影について意見がありましたので、よりよい企画になるよう検討します。

科目名：保健統計（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：29 回収率：48.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.7	3.3	2.8	3.4	3.3	3.4

＊評価に対するコメント

保健統計 担当教員

保健統計は医学科社会医学講座の協力を得てオムニバスで講義を行っています。教科書は看護師教育向けのものを使用していますが、実際には保健師コースの学生に合わせているので少し難しい内容になっています。そのため学習の理解度が充分であったと回答している者が全体の3分の1と少ない状況でした。試験については保健統計のほかには統計学も履修していると思いますが、より理解を深めるために予習・復習を意識した講義内容を考えてみたいと思います。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：29 回収率：48.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	3.9	3.1	3.8	4.1	4.1

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員

問1の予習が3.3、問3の復習は3.1であり、学生にとって自己学習を必要としない授業として評価されました。それと比較し、問2の科目の理解は3.9、問4の目標達成は3.8、問6の満足度も4.1という結果でした。学生は自己学習をしなくても、概ね、授業内容を理解し、目標は達成されているようです。来年度からは学生の自己学習を支援しながら授業の難易度を挙げ、学生にとって学びの多い授業を企画したいと思います。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：29 回収率：48.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.9	3.3	3.8	3.7	3.9

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員

回収数29部（全数60）で、信頼性に欠ける回収率である。回収率の向上のため学生への提出呼びかけ等を実施していく。“全体として満足できる”が昨年と同じ3.9ポイントであり、学生から科目への一定の評価は得られたと考える。最も低かったのは“復習を毎回する”3.3ポイントであった。授業資料のわかりにくさの指摘が複数名からあった。この点について必要な箇所については改善していく。また復習・予習ができるようマナバ等を活用し企画していく。

科目名：薬理学（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.2	2.8	3.2	3.1	3.4

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員

アンケート結果を見ると、予習・復習をしていない、あまりしていないと答えた学生が多かった。薬理学に限らずどの教科も、少しでもいいから予習をすると理解がしやすくなる。さらに、講義後の復習は知識の定着に非常に有効なので、是非行ってほしい。

講義資料の内容と、教科書に書いてある順番を統一してほしいという要望にはできるだけ応えていきたい。また、知識が身についたかどうかは、章末の「work 復習と課題」を活用してほしい。

薬理学は、単位を修得したから終わりではなく、これからが大事である。かぜ薬や頭痛薬、湿疹の塗り薬など、まずは自分あるいは家族の普段使っている薬物がどのようにして効いているのか、考える習慣をつけるところから始め、徐々に増やしていくことをすすめる。どの診療科でも薬物は使われるので、この習慣はきっと役に立つと思う。

科目名：臨床病態治療学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.0	3.6	3.0	3.5	3.7	3.8

＊評価に対するコメント

臨床病態治療学Ⅱ 担当教員

新カリ開始後3年目の臨床病態治療学Ⅱでしたが、全体の満足度の評価平均は3.8ポイントと、前年よりやや低くなりました。授業形態の急な変更などが影響したのかもしれないと考えています。次年度は、より充実した内容を企画したいと思います。

科目名：公衆衛生論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：32 回収率：53.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.8	3.5	3.0	3.5	3.6	3.4

＊評価に対するコメント

公衆衛生論 担当教員

講義では資料の配布を manaba で行っていますが、後半は配布に十分な時間を与えられないことがあったことと試験までの間に対策用資料を用意する時間がなくてぎりぎりになってしまい学生の皆さんには迷惑をかけてしまいました。

次年度は資料の掲示などを含めて早めに対処したいと思います。授業の内容について講義の内容を十分に理解できたと回答した学生（4 以上）が回答者の半数と十分ではないので今年度は効率的に予習と復習ができるような取り組みの仕方を考えてみます。

科目名：看護倫理（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：31 回収率：51.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.6	3.8	3.3	3.7	4.0	3.8

＊評価に対するコメント

看護倫理 担当教員

倫理について学ぶには、人と、そして自分自身と語りあうことが重要です。全員登校が可能となり、2年ぶりに抑制（身体拘束）演習やグループワークも全員そろって行うことができました。

満足度は3.8であり、事前・事後の学習にも熱心に取り組んでいたと思います。本科目の学びが今後の皆さんの看護実践に善い影響をもたらすことを期待しています。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：31 回収率：51.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.9	3.5	3.1	3.7	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

看護理論 担当教員

学生のピアレビューで進める科目のため、予習3.9、目標達成3.7、満足度4.0と良好な評価を得たと思います。看護理論は難しいと思われがちですが、この先皆さんが看護実践を考えるときの道しるべになりうるものです。実習や臨床の看護実践場面で迷ったとき・困ったとき・悩んだときにお役に立てると思います。（141文字）

科目名：高齢者看護学Ⅰ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：28 回収率：46.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.9	3.3	3.6	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

高齢者看護学Ⅰ 担当教員

回答数が約半数であったため、受講者全員の評価を反映していない可能性があるが、おおむね3.0後半を確保しており、評価としては良好であったと考える。特に科目の満足度は4.0であり、理解度も3.9と良好であったことから、引き続き次年度に向けて講義内容をさらに精錬していきたいと考える。事前・事後学習の低さについては、例年通りだが、事後課題については講義内容に関するレポートなどで省察できる機会を提供しており、次年度も引き続き実施していきたい。

科目名：精神看護学Ⅱ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：31 回収率：51.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.2	3.6	3.3	3.7	3.8	4.1

＊評価に対するコメント

精神看護学Ⅱ 担当教員

この科目は精神症状と看護を関連づけながら具体的な援助が考えられるように復習として事例課題を提示しています。しかし、こちらの意図どおり自己学習には反映されておらず、改善の必要性があると評価できます。総合評価は4に届くも、学生間で成績の差が大きく、講義内容について学生が学びを深められるような工夫をしていこうと考えます。

科目名：地域包括ケア論Ⅲ（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：31 回収率：50.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.0	3.0	3.9	4.1	4.2

＊評価に対するコメント

地域包括ケア論Ⅲ 担当教員

健康セミナーの準備・評価、後輩への引き継ぎ作成など、積極的に取り組んでいました。目標達成は3.9、難易度4.1、全体の満足度4.2と高く、自由記載にも「地域について知ることができる楽しい科目」というコメントがありました。3年間の学びを最終学年に活かしてもらいたいと思います。

科目名：疫学（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：18 回収率：29.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.9	3.4	2.8	3.7	3.4	3.5

＊評価に対するコメント

疫学 担当教員

本講義は、医学科社会医学講座の先生にご協力をいただき、オムニバスで実施しています。講義の内容は看護研究や卒業研究だけでなく、卒業後の研究活動においても必須の内容を含んでいます。また、本講義で身につけなければいけない内容も少なくありませんが、受講した皆さんの多くはしっかりと知識を身につけられたように思います。講義内容についてはこれからも試行錯誤しながら内容を吟味していこうと思います。

科目名：看護研究（看護学科第3学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：37 回収率：60.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	3.5	2.9	3.6	3.5	3.7

＊評価に対するコメント

看護研究 担当教員

本講義は前半を講義形式でおこない、後半は教員配属による演習を実施して、卒業研究の研究計画を作成することを目的としています。講義の最終過程で研究計画を発表するまでに研究の意義等を学ぶことを目的としていますが、研究を行うための知識が十分に行えていないことが課題です。学生の皆さんには担当教員の元で研究の実施についての方法を学ぶ機会となるよう改善に努めていくつもりです。

科目名：家族看護論（看護学科第3・4学年通年／選択必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：29 回収率：47.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	4.0	2.9	3.9	4.2	4.2

＊評価に対するコメント

家族看護論 担当教員

問1. 予習3.4、問3. 復習2.9でした。その影響かどうかは分かりませんが、問4. 科目の達成度は3.9であり、決して高くはありません。今後は授業内容を充実させると共に、学生が自己学習をしながら理解を深めていけるような授業にするなど、達成度を高めていきたいと考えます。

また、授業最終日の学内演習（ロールプレイ）について、「学ぶことができた」「面白かった」という自由記載がありました。来年度も引き続き行いたいと思います。

科目名：認知症ケア論（看護学科第3・4学年通年／選択必修）

履修者数：47 配付数：47 回収数：28 回収率：59.6%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.3	4.4	3.0	4.0	4.3	4.6

＊評価に対するコメント

認知症ケア論 担当教員

選択科目の本科目は、回答率を約60%確保しており、ある程度学生の評価を反映したものと判断できる。VRによる認知症高齢者の疑似体験が好評であり、満足度は4.6と高く、理解度も4.4と高かった。VR体験の他、認知症サポーター養成講座も、認知症者を支援する専門職の生の声を聴くことで学生の理解を深める切っ掛けになっていると考えられるため、次年度も引き続き実施していきたい。事後学習が3.0と低く、最終講義に事例検討会を行っており、本科目で得た学びをグループ発表する機会を設けている。この学びが評価に反映されていないと考えられるため、次年度は事例検討会の目的や事後レポートの成果について深められるように指導していきたい。

科目名：クリティカルケア論（看護学科第3・4学年通年／選択必修）

履修者数：20 配付数：20 回収数：6 回収率：30.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.5	4.2	3.3	3.8	4.5	4.7

＊評価に対するコメント

クリティカルケア論 担当教員

領域別実習前の学生が、興味が持て理解ができるような講義内容の組み立てのためか評価者は少ないですが、学生の満足度が4.7と高かったです。これは臨床で実際に活躍している急性・重症患者看護専門看護師、クリティカルケア認定看護師、フライトナースの活動の実際を含めた講義を組み込んだことが大きいと思われます。今年は、ほとんどの学生が対面で講義を受けていました。来年度は事前準備が必要な課題やGWなどを加え予習復習の部分の強化を行う必要があると思います。

科目名：医療経済・看護経営論（看護学科第3・4学年通年／必修）

履修者数：22 配付数：22 回収数：10 回収率：45.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.6	3.8	3.2	3.6	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

医療経済・看護経営論 担当教員

今年度はすべての講義を対面で行うことができました。満足度は4.0と高く、マクロ・ミクロ双方の視点から医療経済について学習できたと考えています。担当講師からは、講義内での質疑応答は素晴らしいものがある一方で、定期試験の論述内容が伴っていない学生が散見されるという意見をいただいています。

科目名：地域包括ケア論Ⅳ（看護学科第4学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：33 回収率：54.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.4	3.9	3.2	4.0	3.9	4.2

＊評価に対するコメント

地域包括ケア論Ⅳ 担当教員

（回収率が14.8%と全体の意見といえるかはともかく）目標達成は3.9、全体の満足度4.0であったこと、他のアンケートでは目標達成ができていると評価した学生が多かったことと合わせ、まずまずの成果が得られたと考えています。4年間の「地域包括ケア論」での学びから得た「地域で生活する人々」とともに活動し、支援することの意義と楽しさが皆さんの今後の保健医療の実践に役立つことを願っています。

科目名：卒業研究（看護学科第4学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：27 回収率：44.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
3.1	3.8	3.0	3.9	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

卒業研究 担当教員

この科目は2～3名からなるグループで1つの興味・関心のあるテーマを定め看護研究を進めていくものです。3年生の看護研究からの継続ですが、研究計画書の作成、調査・分析、論文作成、発表と大変に時間を要し、なお且つ、計画性やチーム力も求められます。そのため、研究意欲についてグループ内やグループ間で若干の温度差が感じられました。12月の研究成果の発表は非常に興味深い内容が多いのですが、総合評価は3.9と学生の努力の結果としては低いように評価できます。研究を通して看護の面白さを感じてもらえるような方法や時間配分の再検討を考えております。

科目名：看護教育論（看護学科第4学年通年／選択必修）

履修者数：23 配付数：23 回収数：4 回収率：17.4%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6
2.5	3.8	2.5	3.5	3.8	4.0

＊評価に対するコメント

看護教育論 担当教員

本科目は選択科目です。これまで1桁の科目履修だったものが、2019カリになり20名を超え、科目担当者がちょっと戸惑いながら授業を展開していました。3コマ続きの5回授業というスケジュールを活かし、アクティブラーニングを中心に主体的に教育について有意義に学びを深めてもらっていました。しかし、今年度は遅刻する学生が目立ち、グループワークも意欲が感じられない状況でした。回答者が4名ではありますが、総合評価も高いとは言えません。科目担当者としては「選択しなければならない」ではなくて「看護教育に対する目的をもち主体的に選択」して欲しいと願っております。同時に学生の意欲が高められる授業内容を教員側も検討していきます。

令和4年度後期「企画に対する学生評価」

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。
	問2 実習（演習）に積極的に参加しましたか。
実習（演習）計画	問3 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで理解できましたか。
	問4 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。
	問5 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。
	問6 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。
実習（演習）内容	問7 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。
	問8 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。
	問9 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。
	問10 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。
	問11 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。
実習（演習）環境	問12 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能に問題はありませんでしたか。
	問13 実習（演習）用の設備・機材・用具などは量の面で十分でしたか。
	問14 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。
	問15 安全の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問16 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う （非常に良い）
 ④ やや思う （良い）
 ③ どちらとも言えない （普通）
 ② あまりそう思わない （あまり良くない）
 ① 全くそう思わない （良くない）

科目名：情報科学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：55 回収率：57.9%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.4	4.5	4.3	4.7	4.2	4.4	4.4	4.7	4.5	4.1	4.0	4.1	4.3	4.4	4.4	4.3

＊評価に対するコメント

情報科学実習 担当教員

What you see is not always what you get. Book covers can look boring or interesting, but you won't know the true about the book until you read it. The thickness of a book can make its content look advanced. Colorful illustrations may make the content easier to understand. You cannot really know books just by looking at them. Inside, they could be completely different. Finally, from the evaluation results of the lessons, it becomes clear that many students fully understood the purpose and significance of the training. Therefore, we are confident that the lecture training was successful.

科目名：基礎化学実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：95 配付数：95 回収数：67 回収率：70.5%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.0	4.6	4.4	4.4	4.6	4.7	4.4	4.6	4.4	4.3	3.7	4.6	4.5	4.6	4.7	4.5

＊評価に対するコメント

基礎化学実習 担当教員

令和4年度の基礎化学実習では昨年度同様に分散登校で実施しました。具体的にはコロナ前の1/2の定員、実習も8テーマから4テーマに絞り、感染対策（マスク着用、消毒用アルコール配布、換気）を徹底したうえで実習を行いました。また、登校せずに自宅学習となる学生の皆さんにはmanaba上でレポート課題を出し、濃度計算等の基本的な計算問題や実習と関係した基礎化学の問題を出しました。基礎化学実習では、白衣の正しい着用方法、安全教育（試薬の取扱い、化学物質の廃棄の仕方、事故時の対処方法など）と実験器具（洗浄ビン、ガラス器具、マイクロピペット、電子天秤や分光器などの測定装置）の取り扱いや片づけ方法を説明しましたが、時間が限られていたので最低限の内容で実施しました。実習を1名で行ったこともあり、皆さんは真剣に実習に取り組んでおられました。実習が楽しかったとのコメントが例年より多く寄せられました。医学科2年生以降の実習でも真剣に取り組んでいただけるものと期待しています。最後にひとこと申し上げます。危険を伴う基礎化学実習では試薬の取り扱い方、廃棄方法、事故時の対処等について動画を使いながら丁寧に説明しています。このため、どうしても説明時間が長くなってしまいますが、例年、説明中に居眠りする方が少数おられ、説明時間が長くて眠くなるというコメントも毎年寄せられています。以下、化学教室からのコメントを寄せていただいた方への回答です：実習では事故が起こる可能性や絶対に守らなければならないルールがあります。（これは医療行為でも同じです）。医学科2年生以降の実習や病院実習でも説明が長いと感じることはあるでしょう。しかし、説明を聞いて理解し、事故を未然に防ぐことは絶対に必要なのです。医師となる皆さんは絶対に居眠りしてはいけません。肝に銘じていただきたいと思います。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）

履修者数：97 配付数：97 回収数：59 回収率：60.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.1	4.4	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2	4.4	4.1	4.2	3.7	4.2	4.3	4.4	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

心理・コミュニケーション実習 担当教員

本年度は、対面とオンラインを併用する実習を行なった。心理学実験では、実習で使用する物品を事前に配布し、オンラインで実験実習を行った。また、コミュニケーション実習では、カウンセリングスキルを習得するためのロールプレイをオンラインで行った。同様に、ユマニチュード実習では、介護施設実習に代わる実習をオンラインで行った。一方、模擬患者実習は対面で行った。評価項目全般で高い評価が得られ、満足度の平均は4.3であった。自由記載では「学びと実践が直結した良い授業だった」、「実習を通してコミュニケーションスキルの向上を実感できた」などの肯定的な評価が見られた。一方、「グループ活動の時にずっとzoomをミュートしている人がいた」、「授業をさぼって班員に仕事を任せて遊んでいる生徒がいた」などの重要な指摘もあった。これまでは、毎年全学生が誠実に実習に参加してきており、過去20年間にこのような問題に直面したことはなかった。次年度は、グループ活動中の各学生の行動をチェックすることによりこの問題の改善を目指したい。

科目名：医療社会学実習（医学科第2学年通年／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：72 回収率：60.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
3.6	4.0	3.9	4.3	4.0	4.2	4.1	4.2	3.7	3.8	4.0	3.9	4.2	4.2	4.2	4.1

＊評価に対するコメント

医療社会学実習 担当教員

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大防止のためにインタビュー調査はとりやめました。前年度と同様に、質問紙調査の方法論を理解すること、調査で得たデータを分析することを主眼とする内容で実施しました。授業評価の集計結果などをみると、データ分析に苦心して取り組んだことが伝わってきました。実習の履修者は、さまざまな課題に取り組むなかで、実習の意図や調査の意義への理解を深めてくれたようです。新しいカリキュラムでは、医療社会学実習は第3学年での実施となり、内容も大きく変更される予定です。これまでの経験を活かして、第3学年での医療社会学実習を企画立案したいと考えています。

科目名：形態学実習Ⅱ（医学科第2学年後期／必修）

履修者数：120 配付数：120 回収数：24 回収率：20.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.8	4.6	4.5	4.8	3.6	4.5	4.7	4.6	4.2	4.2	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.5

＊評価に対するコメント

形態学実習Ⅱ 担当教員

回収率が20%と低かったが、満足できるコースとなったのではないかと自負している。肉眼解剖実習では、3名の教員により指導に当たったが、学生数に比しやや少なかったことは否めない。学生もかなり予習してきており、スムーズに実習は進んだ。Covid-19関係での欠席者もある程度あったが、実習によるクラスター発生などはなかった。大過なく、全員で実習を終えられて、結果的にはよかったと思う。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：48 回収率：80.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.1	4.7	4.2	4.8	4.6	4.6	4.6	4.6	4.0	4.1	4.2	4.2	4.4	4.7	4.5	4.7

＊評価に対するコメント

生体観察実習 担当教員

生体観察実習は満足度（問6）で高い評価を得る事ができた。ここ2年はコロナ禍のため限定された実習となっていたが、本年度は全ての実習を学生の全員参加で実施する事ができ、この点が高評価に繋がったと考えている。感染拡大の懸念はあったが、実習が原因となる感染拡大は防止でき、これは担当教員と学生各位に感謝したい。次年度以降も実習の完全な形での実施が期待できるため、さらなる実習内容の洗練と改良に努めていきたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅱ（看護学科第1学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：36 回収率：60.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16
4.5	4.7	4.2	4.3	4.6	4.6	4.5	4.6	3.9	4.2	3.5	4.4	4.4	4.5	4.0	4.2

＊評価に対するコメント

基礎看護技術学Ⅱ 担当教員

授業評価に回答いただいた皆様、ありがとうございます。結果および自由記載から皆さんが真摯に一生懸命努力されたことが伝わってきました。授業が週2回ありますので事前学習事後学習は時間の捻出など大変だったと思います。演習でよりよく学ぶためにも、その後の練習のためにも課題が必要となります。練習したいとの声がありましたので、放課後、春季休業中に実習室を開放しました。

令和4年度後期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強く思う (非常に良い)
 ④ やや思う (良い)
 ③ どちらとも言えない (普通)
 ② あまりそう思わない (あまり良くない)
 ① 全くそう思わない (良くない)

科 目 名：基礎看護学実習Ⅱ (看護学科第2学年後期／必修)

履修者数：60 配付数：59 回収数：35 回収率：59.3%

＊評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12
4.5	4.0	4.2	3.8	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	3.6	4.0

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅱ 担当教員

感染予防のため、病棟実習とオンライン実習を1日おきに交互に行いました。病棟実習の後オンライン実習で患者のアセスメントを進めることができ、看護実践をより理解できたとの意見が複数ありました。限られた時間の中ですが、有意義に学べたことがわかりました。初めての臨床実習で実習前も実習中も不安が多かったと推測します。今後も皆さんがより良く学べるように関係部署と連携を図っていきます。また、回収率が上がるように手渡しで評価表を配付しましたが、回収率が60%未満でした。この点に関しても検討したいと思います。

科 目 名：成人看護学実習Ⅰ (急性期) (看護学科第3学年後期／必修)

履修者数：61 配付数：61 回収数：34 回収率：55.7%

＊評価結果 (平均)

問 1	問 2	問 3	問 4	問 5	問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12
4.8	4.9	4.7	4.1	4.8	4.8	4.5	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅰ (急性期) 担当教員

昨年度は、実習記録に関する問3が他の項目に比べて著しく低かったが、今年度は「4.1」であった。これは、実習記録に関する説明や指導をオリエンテーションや日々の実習場面で詳細に行ったためだと考えられる。今年度は全ての項目が「4.0」以上であったことから、学生は実習に意欲的に取り組み、この実習企画に対する満足度も高かったとの評価ができる。

科目名：成人看護学実習Ⅱ（外来）（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：40 回収率：66.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.8	4.8	4.7	4.7

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅱ（外来） 担当教員

この実習は、第3学年後期の11月から2月にかけて、外来看護を主たる形態を見学として実施している実習である。主に内科系の診療科外来、外来化学療法センター、皮膚・排泄ケアなどの看護外来で実習している。COVID-19による影響にて内視鏡室など一部見学実習ができなかった部署もあるが、学生からの評価（回収率67%）12項目は4.6～4.8と高評価を得ており、良好であった。

科目名：成人看護学実習Ⅲ（慢性期）（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：31 回収率：50.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.7	4.7	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8

＊評価に対するコメント

成人看護学実習Ⅲ（慢性期） 担当教員

この実習は、第3学年後期の11月から2月にかけて、6階西NS、7階東NS、9階西NSにて慢性期看護の実習を行っている。COVID-19による影響にて全ての実習形態が見学となった。また、実習病棟のクラスター発生により、病棟実習ができなかった学生もいた。病棟での実習は感染対策を厳守し15分以内でのベッドサイドでのコミュニケーションやケアの見学はできた。学生からの評価12項目（回収率51%）は4.7～4.8と高評価を得ており、良好であった。

科目名：母性看護学実習（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：48 回収率：78.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	4.3	4.4	3.5	4.3	4.4	4.4	4.3	4.2	4.6	4.3	4.3

＊評価に対するコメント

母性看護学実習 担当教員

今年度は回収率が78.7%で昨年度から大幅に上昇したことは、学生評価として信頼できると判断した。評価は、全体の平均が4.3であり、学生にとって概ね満足できる実習企画と判断した。実習中の記録・提出物の量については、前年度と同じ量にもかかわらず評価が低下した。コロナ禍で臨地実習の実践経験が希薄化しており、臨地実習に必要な実習記録の量に慣れず、記録物が多いと印象づいた可能性があり、臨地実習のさらなる実践経験が望まれる。また、指導内容については、教員の説明が学生にうまく伝わっていない可能性が示唆されたため、次年度は記録を含めた実習内容が正しく伝わるよう工夫する。

科目名：精神看護学実習（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：61 回収数：19 回収率：31.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.6	4.4	4.8	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.6	4.6

＊評価に対するコメント

精神看護学実習 担当教員

今年度は、病院実習が行うことができなかったグループが3グループあった。オンライン実習の模擬患者、病院・地域で精神の健康問題を抱えながら生活する人々に出会い、緊張しながらも限られた時間を有効に活用し向き合っていたと思います。オンライン実習併用のメリットを活かし、より学びが深めることができるカンファレンスや学内実習を検討していきます。

卒業生の動向(医学科)

令和5年3月24日(金)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	令和4年度卒業生		
			男	女	計
進 学	小	計	0	0	0
就 職	道 内	本院（旭川医科大学病院）	21	11	32
		北海道大学病院	0	0	0
		その他	28	17	45
		計	49	28	77
	道 外	大学関係病院	9	4	13
		その他	11	12	23
		計	20	16	36
	小 計		69	44	113
未 定 ・ その他			6	3	9
合 計			75	47	122

上記以外の病院名

道 内：JA北海道厚生連旭川厚生病院・旭川赤十字病院・市立旭川病院・国立病院機構旭川医療センター
NTT東日本札幌病院・札幌東徳洲会病院・勤医協中央病院・国立病院機構北海道医療センター
斗南病院・JCHO札幌北辰病院・市立札幌病院・札幌徳洲会病院・手稲溪仁会病院・名寄市立病院
北見赤十字病院・深川市立病院・釧路市立病院・市立稚内病院・帯広第一病院・帯広協会病院
北海道社会事業協会帯広病院・JA北海道厚生連帯広厚生病院・北斗病院・市立函館病院

道 外：東京北医療センター・江東病院・東京大学医学部附属病院・板橋中央総合病院・東京医科歯科大学
立川相互病院・慶応義塾大学病院・国立病院機構横浜医療センター・獨協医科大学埼玉医療センター
新久喜総合病院・埼玉医科大学病院・千葉大学医学部附属病院・総合病院国保旭中央病院
松戸市総合医療センター・千葉徳洲会病院・聖隷浜松病院・静岡済生会総合病院・霞ヶ浦医療センター
獨協医科大学病院・自治医科大学附属病院・佐渡総合病院・JA新潟厚生連長岡中央総合病院
いわき医療センター・JA愛知厚生連豊田厚生病院・藤田医科大学病院・岸和田徳洲会病院
淀川キリスト教病院・堺市立総合医療センター・住友病院・奈良県立医科大学附属病院
近畿大学奈良病院・市立奈良病院・滋賀医科大学医学部附属病院・香川県立中央病院

卒業生の動向(看護学科)

令和5年3月24日(金)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分			大学及び病院名等	令和4年度卒業生		
				男	女	計
進 学	道 外			0	1	1
	小 計			0	1	1
就 職	道 内	看 護 師	本院（旭川医科大学病院）	5	18	23
			北海道大学病院	0	3	3
			札幌医科大学附属病院	0	1	1
			その他	0	13	13
		保 健 師	地方自治体	1	9	10
		助 産 師	本院（旭川医科大学病院）	0	0	0
			北海道大学病院	0	1	1
			その他	0	5	5
		計		6	50	56
	道 外	看 護 師	大学関係病院	0	3	3
			その他	0	0	0
		保 健 師		0	0	0
		助 産 師		0	0	0
		計		0	3	3
	小 計			6	53	59
	未 定 ・ その他			0	1	1
	合 計			6	55	61

上記以外の病院名および自治体名

道 内：上川町・滝上町・旭川市・北海道(帯広市)・富良野市・苫小牧市・月形町・剣淵町・小平町
清水町・釧路赤十字病院・帯広慶愛病院・JA北海道厚生連帯広厚生病院
JA北海道厚生連旭川厚生病院・KKR札幌医療センター・北海道がんセンター
市立札幌病院・JA北海道厚生連札幌厚生病院・JR札幌病院・JCHO北海道病院
手稲溪仁会病院

道 外：東京慈恵会医科大学病院・昭和大学横浜北部病院・聖路加国際病院

令和5年度保健管理センター健康相談日

主な相談内容	相 談 医		定期相談日	相談時間
内科・外科	第 二 外 科 医師	高 畠 宏 規	毎週 木曜日	月～金 昼休み
内 科	第 一 内 科 医師	蓑 島 暁 帆	毎週 月曜日	
	第 二 内 科 医師	滝 山 由 美	毎週 火曜日	
	第 三 内 科 医師	坂 谷 慧	毎週 金曜日	
*精神神経科	精神神経科 医師	高 崎 英 気	毎月2回	
*皮 膚 科	皮 膚 科 医師	中 川 智 絵	毎月 1 回	
*婦 人 科	産科婦人科 医師	横 浜 祐 子	毎月 1 回	
*歯 科	歯科口腔外科 歯科医師	小 神 順 也	毎月 1 回	
健康相談全般	保健管理センター長 川 村 祐一郎		原則として毎週水曜日昼休み 緊急の場合にはそれ以外でも可	

(注) ・*印の付いている科の相談希望の場合は、事前に予約が必要です。

・定期相談日等は、都合により変更することがあります。

◎保健管理センターの開所時間・連絡先

平日 8:30～17:00 (土・日・祝日は閉所)

電話 0166-68-2768



体温計は、ありますか？
健康管理のために、
用意しておきましょう！！

保健管理センター来所時には、保険証は
必要ありませんが、他医療機関を受診する場合には
必要となります。必ず用意しておきましょう。



旭川医科大学役員等紹介

令和5年4月1日付けの役員等は、下記のとおりとなりましたのでお知らせします。

職 名	氏 名
学 長	西 川 祐 司
理事、副学長（医師の働き方改革担当）、病院長	古 川 博 之
理事、副学長（教育、評価担当）	奥 村 利 勝
理事（財務、企画担当）（非常勤）	辻 泰 弘
理事（地域医療担当）（非常勤）	佐 古 和 廣
副学長（研究担当）	川 辺 淳 一
副学長（IR、産学連携担当）	松 本 成 史
副学長（国際交流、広報担当）	本 間 大
医学部医学科長	奥 村 利 勝
医学部看護学科長	升 田 由美子
大学院博士課程医学専攻長	川 辺 淳 一
大学院修士課程看護学専攻長	藤 井 智 子
図書館長	三 好 暢 博
副病院長（病院経営担当）	東 信 良
副病院長（事故防止、医療機器担当）	藤 谷 幹 浩
副病院長（外来担当）	竹 川 政 範
副病院長（安全問題、患者サービス、ボランティア担当）	原 口 眞紀子
病院長補佐（医療従事者教育担当）	田 崎 嘉 一
病院長補佐（臨床研修担当）	牧 野 雄 一
病院長補佐（コロナ対策、臨床倫理担当）	加 藤 育 民
監事（業務）	鈴 木 義 幸
監事（会計）	桶 利 光

教 員 の 異 動

令和5年3月31日	定 年 退 職	医学部社会医学講座(衛生学・健康科学分野)	教 授	吉 田 貴 彦
令和5年3月31日	定 年 退 職	医学部生物学	教 授	立 野 裕 幸
令和5年3月31日	定 年 退 職	医学部看護学講座	教 授	服 部 ユカリ
令和5年3月31日	定 年 退 職	医学部心理学	教 授	高 橋 雅 治
令和5年3月31日	定 年 退 職	病院外科(肝胆脾・移植)	講 師	松 野 直 徒
令和5年3月31日	退 職	医学部数学	教 授	寺 本 敬
令和5年3月31日	退 職	医学部英語	准教授	戸 塚 将
令和5年3月31日	退 職	医学部歯科口腔外科学講座	准教授	本 橋 征 之
令和5年3月31日	退 職	病院整形外科	講 師	丹 代 晋
令和5年3月31日	退 職	医学部救急医学講座	講 師	小 林 厚 志
令和5年3月31日	退 職	病院臨床検査・輸血部	講 師	赤 坂 和 美
令和5年4月1日	昇 任	医学部救急医学講座	准教授	丹 保 亜希仁
令和5年4月1日	昇 任	医学部歯科口腔外科学講座	准教授	吉 田 将 亜
令和5年4月1日	昇 任	医学部小児科学講座	講 師	中 右 弘 一
令和5年4月1日	昇 任	病院整形外科	講 師	阿 部 里 見
令和5年4月1日	昇 任	医学部脳神経外科学講座	講 師	三 井 宣 幸
令和5年4月1日	昇 任	医学部救急医学講座	講 師	中 嶋 駿 介
令和5年4月1日	昇 任	病院臨床検査・輸血部	講 師	坂 本 央
令和5年4月1日	配 置 換	病院腫瘍センター	准教授	田 邊 裕 貴
令和5年4月1日	改組による配置換	国際交流推進センター	教 授	本 間 大
令和5年4月1日	改組による配置換	研究推進本部	教 授	松 本 成 史
令和5年4月1日	改組による配置換	研究技術支援センター	准教授	伊 藤 拓 哉
令和5年4月1日	改組による配置換	研究技術支援センター	講 師	笹 島 仁
令和5年4月1日	改組による配置換	医学部感染症学講座(微生物学分野)	教 授	原 英 樹
令和5年4月1日	改組による配置換	医学部感染症学講座(寄生虫学分野)	教 授	迫 康 仁
令和5年4月1日	改組による配置換	医学部感染症学講座(寄生虫学分野)	准教授	伴 戸 寛 徳
令和5年4月30日	辞 職	医学部生化学講座	講 師	江 口 良 二
令和5年4月30日	辞 職	病院眼科	講 師	大 前 恒 明
令和5年5月1日	昇 任	病院眼科	講 師	西 川 典 子
令和5年5月11日	改組による配置換	病院外科(血管・呼吸・腫瘍)	准教授	北 田 正 博